

上田市文化財調査報告書第62集

常入遺跡群

下町田遺跡

信州大学繊維学部大学院棟建設に係る
常入遺跡群下町田遺跡発掘調査報告書

1997.2

上田市
上田市教育委員会
信州大学繊維学部

常入遺跡群

下町田遺跡

信州大学繊維学部大学院棟建設に係る
常入遺跡群下町田遺跡発掘調査報告書

1997.2

上田市
上田市教育委員会
信州大学繊維学部

序

いよいよ残すところ1年と迫った長野冬季オリンピックに向け、色々とその準備が整いつつあります。このたびのオリンピックは、「ナガノ」の国際的な知名度が上がり、世界の人々は「ナガノ」に対して、「国際都市」という印象を確実に高めるものと思われます。

よく言われることですが、「国際化」とは、欧米諸国の事情や言語に精通していることではなく、自國や故郷の歴史や風土・文化を深く理解し、世界の人々にメッセージできる素養だといわれます。

『ニッポンてどんな国ですか？』『ウエダってどんなところですか？』と世界の人々尋ねられたとき、正確な知識と誇りを持って語ることのできる人を、ひとりでも多く育てたい、これが私たち教育に携わるもの希望と使命であります。

文化財保護は、まさしくこの国際化の中で最も根源的な仕事であると考えます。ともすると、現代の開発優先のうねりの中で、次々と姿を消していく文化財、ことに埋蔵文化財です。しかし、自らの民族の歴史を語る貴重な資料を、次々と壊し去っていくことが、国際的な市民・国民と言えるでしょうか。

現在、埋蔵文化財の保護については、「記録保存」の手法が多く取り入れられています。このことは一方で、「記録保存」さえすればいいだろう、という安易な発想にもつながりかねません。しかも、調査に携わる私たちも、ともすると、『よい調査をしよう』という気概よりも、『早く終わらせなくては…』という焦りの中で、調査をおろそかにしがちな傾向がありますが、この点は反省しなければなりません。現代の発掘調査によって私たちが受け止めることのできる過去からのメッセージは、ごく僅かであります。将来の科学の進歩の中では、遺跡を壊すことなく調査する方法も必ずや確立され、そこから得られる情報も、現在よりはるかに多くなることでしょう。私たちは、文化財の調査を目的とするのではなく、保護を目的としている、この点を再確認すべきだと考えます。

このたび、上田に所在する国立信州大学織維学部において、大学院棟を建設するに際し、建設地に所在する「下町田遺跡」を発掘調査し、その結果をここに御報告いたします。さいわい、前述した文化財保護の理念を大学関係者及び施工者に深くご理解いただき、調査は、若干の延期があったものの、順調に進捗し、弥生時代終末に比定される良好な集落遺跡の一部が確認できました。衷心から関係各位に御礼申し上げ、序の辞といたします。

平成9年2月

上田市教育委員会教育長 内藤 尚

例　　言

- 1 本書は、長野県上田市常田三丁目15番1号信州大学織維学部構内における、大学院棟建設に伴う、常入遺跡群下町田遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、信州大学織維学部の委託に基づき、上田市（上田市教育委員会事務局社会教育課）が実施した。
- 3 現地調査は、平成8年3月9日に試掘調査を実施し、3月29日から4月30日まで実施し、整理作業は、5月21日から平成9年2月28日まで断続的に実施した。なお、試掘調査は、上田市が平成7年度に実施した「市内遺跡発掘調査」事業として行っている。
- 4 現地調査における重機による表土剥及び排水運搬は、大学の依頼により、建設工事受注者の北野建設株式会社によって行われ、調査担当者の中沢が立合指示をした。
- 5 遺構の実測は、久保田敦子及び中沢が行った。
- 6 遺構実測の基準となるメッシュ杭打ち及び水準点設置は、株式会社協同測量社に委託して実施した。
- 7 遺物の洗浄・注記・接合・実測・観察、遺構実測図及び遺物実測図のトレース、報告書作成は、中沢の指示のもと、整理作業員が行った。
- 8 遺物の実測の一部は、小川忠博に写真撮影を委託して、原寸大にプリントしたものをベースに、図化・トレースした。
- 9 遺構写真は中沢が撮影したものを使用したほか、遺構全体写真は、株式会社協同測量社に委託した測量用航空写真を使用した。
- 10 遺物写真の一部は、小川に委託して撮影したものを使用した。
- 11 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 12 本調査にあたり、北野建設株式会社に作業棟の貸与、重機作業の供与をいただいた。また、五十嵐幹雄氏、山岸猪久馬氏には、調査に際し、ご教示をいただいた。記して感謝する次第である。
- 13 本調査に係る調査の体制は次のとおりである。

事務局職員（職名）	現地作業員	整理作業員
内藤尚（教育長）	村田宣子	市村みつ子
荒井鉄雄（教育次長）	沢沢生	大井敬子
松沢征太郎（社会教育課長）	沢沢昇郎	井澤光子
岡田洋一（文化係長）	宮本五治	丸田由紀子
中沢徳士（文化係担当者）	柳本治郎	里万江
尾見智志（”）	宮本施	山場奈那
塙崎幸夫（”）	竹中章	江野好枝
久保田敦子（”担当者）	谷重調	石野萬里
久保田浩（”）	水部正定	村かなり
西沢和浩（”）	中清梅	田村まり
清水彰（”）	井貴治	田玉
小笠原正（”）	林坂正	王霞

凡　例

遺構

- 遺構は、次の（ ）内に示す略号で表し、続く番号は任意で、欠番もある。
竪穴住居址（S B -） 竪穴住居址内のピット（P） 集石遺構（S X -）
- 遺構図版は、原則として国家座標に基づく北を頁の上とした。紙面の都合による例外の場合は、別途方位を示した。
- 遺構実測図は、原則として原図1/20、縮小1/3とした。さらに、詳細な実測が必要な場合は、原図1/10、縮小1/3とした。各図の最終縮尺は、図中のスケールによりたい。
- 遺構が、時代の新しい遺構あるいは攪乱等によって破壊を受けたり、不明確な場合は、その遺構の推定プランを破線で示した。
- 住居址の主軸方位は、国家座標の北と住居址の中軸線とのなす角度で示した。
- 遺構の規模や標高を示す単位は、すべて「m」である。
- 遺構図中の網点 [REDACTED] は焼土を示す。
- 遺構写真図版の縮小は任意である。
- 遺構観察表の表記方法は、次のとおりである。

遺構	遺構番号	形態 方位	平面影響 凡例5による 平面の長軸×単軸	壁 床 床面積	壁の最高面からの高さ 床の高さ 床の面積	最大～最小(方角) 床の高さ 床の面積(d)	炉	位置 規模 深さ	位置 長軸×単軸 深さ
柱穴	[REDACTED]	鉛筆に伴う柱穴の長径×短径×高さ							
備考									

遺物

- 遺物実測図は、原図1/1、縮少1/3とした。
- 土器の実測方法は、4分割法を用い、右1/2に断面及び内面を、左側1/2に外面を記すことを原則としたが、調整の特徴等により例外も多くある。
- 器面調整の実測に当たっては、一部を小川忠博撮影の実測用写真をベースに実測した。
- 赤色塗彩のある部分は、網点 [REDACTED] で示した。
- 遺物観察表の「法量」の単位はcmである。
- 遺物観察表の「器質」の「胎」は胎土を、「焼」は焼成を、「色」は色調を表す。なお、色調は遺物の外面・内面の基本的な色調を、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』を用いて判別した。
- 遺物観察表の「整形」の表現で、「箒磨き」は箒状工具による磨き、「箒撫で」は箒状工具による撫で、「箒削り」は箒状工具による削り、「波状文」は櫛齒状工具による波形の文様、「簾状文」は壺への櫛齒状工具による横位の直線文、「櫛描直線文」は壺への櫛齒状工具による横位の直線文、「T字文」は壺への櫛齒状工具による縦位と横位の直線文のT字形交差文、「刷毛目」は刷毛状工具による圧の強い調整、「撫で」は指または布による撫でを表している。
- 遺物写真図版の縮小は任意である。

目 次

第一章 調査の経過	1	第2節 出土遺物	23
第1節 調査に至る経過	1	第16図-1 SB-01遺物実測図	23
第2節 調査の方法	2	第16図-2 SB-01遺物実測図	24
第3節 調査日誌(抄)	2	第17図 SB-02遺物実測図	25
第1図 調査地位置図(1)	...	4	第18図 SB-03遺物実測図	25
第二章 遺跡の環境	5	第19図-1 SB-04遺物実測図	26
第1節 自然的環境	5	第19図-2 SB-04遺物実測図	27
第2節 歴史的環境	5	第19図-3 SB-04遺物実測図	28
第2図 周辺遺跡分布図	...	6	第19図-4 SB-04遺物実測図	29
第1表 周辺遺跡一覧表	...	7	第20図 SB-06遺物実測図	30
第3節 遺跡の層序	8	第21図 SB-07遺物実測図	31
第三章 調査の結果	9	第22図-1 SB-09遺物実測図	32
第1節 検出遺構	9	第22図-2 SB-09遺物実測図	33
第3図 調査地位置図(2)	...	9	第23図 SB-10遺物実測図	33
第4図 遺構全体図	...	10	第24図 SB-13遺物実測図	34
第5図 SB-01実測図	...	11	第25図-1 SB-15遺物実測図	34
第6図 SB-02実測図	...	12	第25図-2 SB-15遺物実測図	35
第7図 SB-03実測図	...	12	第26図 SX-01遺物実測図	36
第8図 SB-04実測図	...	13	第27図 遺構出土遺物実測図	36
第9図 SB-06実測図	...	14	第4表 遺物観察表(1)	37
第10図 SB-07実測図	...	15	第5表 遺物観察表(2)	38
第11図 SB-09実測図	...	16	第6表 遺物観察表(3)	39
第12図 SB-10実測図	...	17	第7表 遺物観察表(4)	40
第13図 SB-13実測図	...	18	第8表 遺物観察表(5)	41
第14図 SB-15実測図	...	19	第9表 遺物観察表(6)	42
第15図 SX-01実測図	...	20	第10表 遺物観察表(7)	43
第2表 遺構観察表	...	21	第11表 遺物観察表(8)	44
第3表 遺構観察表	...	22	第12表 遺物観察表(9)	45
			第13表 遺物観察表(10)	46
			第14表 遺物観察表(11)	47
			第15表 遺物観察表(12)	47
			写真図版		

第一章 調査の経過

第1節 調査に至る経過

平成8年2月27日、信州大学織維学部（以下「大学」という。）管理係長から、上田市教育委員会事務局社会教育課（以下「事務局」という。）に対し、平成8年4月から、大学構内に大学院棟を新築することになったが、埋蔵文化財については如何か、という照会があった。

事務局で上田市文化財分布図をあたったところ、照会地は常入遺跡群の範囲であり、分布調査報告書（1977年上田市教育委員会発行『上田市の原始・古代文化』）によれば、「下町田遺跡」の所在する地域であった。さらに、過去の調査の記録をたどってみると、昭和25年に五十嵐幹雄氏が大学に保管されていた遺物を『信州大学織維学部保存の彌生式土器』（1950年信濃史学会発行『信濃』第2巻12号）として報告し、「…上田市には彌生式から祝部式にかけての大きな遺跡が三箇所あるが、当遺跡はその一であって…」と評価している。また、1966年には、五十嵐氏を団長として、小林幹男氏・川上元氏らによって、大学内の桑園で学術発掘調査が行われ、古墳時代中～後期の住居址と土師器を検出している。

事務局では当面、①早急に試掘調査を実施すること。②試掘調査の経費負担及び実施は、上田市が行うこと。③試掘調査の結果を見て、再度協議を行うこと。④遺跡が存在する可能性が極めて高く、発掘調査の必要が生じると思われるが、上田市がすぐに発掘調査に入れる体制ではないので、大学で考古学専門の教授等がいるか、あたっておくこと。の4点で申し入れておいた。

3月9日、事務局は施工予定範囲を対象に試掘調査を実施した。その結果、地表から50cm下のレベルから、弥生時代後期の堅穴住居址のプランと、該期の土器を確認し、遺跡の存在は確実なものとなった。

3月14日、大学において、大学と事務局、施工業者との保護協議がもたれ、調査期間と経費について話し合いを行った。この中で、調査期間と経費の節減のため、重機による表土剥と仮設ハウス・仮設トイレ・電話の設置については、大学の直接の負担により施工業者である北野建設㈱に依頼することとしたが、肝心の調査担当者の手配については、大学・事務局双方で持ち帰り、継続協議となつた。その後、両者の事務調整の中で、調査の実施は、大学の委託により上田市が実施することとなり、次のとおり調査を実施することとなつた。

発掘調査場	長野県上田市常田三丁目15番1号	調査の作業日数	発掘20日 整理20日 合計40日
遺跡名	下町田遺跡	調査に関する報酬	4,263,000円
遺跡の状況	(地目)大学敷地ほか(敷地)一部破壊	報告書等	事業完了報告書を2部提出する。
発掘調査の目的及び要領	信州大学織維学部大学院棟建設に先立ち、約1,000m ² を発掘調査して記録保存を図る。遺跡における発掘作業は平成8年4月20日までに終了する。		
調査の委託先	上田市		
その他	調査の結果、重要な遺構が検出されたときはその保存について改めて協議する。		

第2節 調査の方法

遺跡名は、上田市埋蔵文化財調査報告書に記載されている「下町田遺跡」とした。従来は、長野県教育委員会作成の遺跡台帳の名称によっていたが、過去の調査との整合を図るために、この名称を用いた。また、記録の便宜を圖るため、遺跡略号として Shimo-Machi-Da の「SMD」を付した。各種の記録や遺物の注記等には、この略号を用いている。

調査範囲は、建物の範囲とし、調査に際しては、表土剥はすべてバックホーを用い、その後の作業はすべて人手によった。また、国家座標に従い 3×3 m のメッシュをはり、遺物の取り上げ、測量に用いた。メッシュの交点には、便宜上記号を与えた。メッシュ記号は、基準点を 0 とし、方向を表すために東・西・南・北をそれぞれ E・W・S・N を、距離を表すために 3 m を 1 単位とした数字を 1・2・3・4…と与え、この組み合わせによって位置を示した。例えば、基準点 0 から北に 12m、東に 36m のメッシュ交点の記号は N 4 E 12 となる。グリッドは、このメッシュ交点を北東とするピンで表した。なお、基準点の座標値は、X = 43,218.000、Y = -21,096.000 で、国家座標第Ⅲ量系に属する。

現地調査における実測は、このメッシュによる簡易遺り方測量を用い、測量用の空中写真撮影も行っている。

第3節 調査日誌（抄）

平成 8 年

- 3/29 施工業者の北野建設㈱によって伐採済の樹木を片付けた後、同社発注の重機による表土剥を開始する。使用中の排水管や污水管が多く敷設されており、作業に手間取る。
- 4/1 30年前に建っていたというレンガ建物の基礎やその解体瓦礫が大量に出てくる。
- 4/2 瓦礫を埋めた穴や掘込みが多く、調査区西側の遺構検出面の依存状態は芳しくない。
- 4/3 重機による表土剥が終了する。調査機材の搬入を行う。
- 4/4 本日より作業員を投入しての調査となる。朝、作業の注意事項や出勤形態、時間割りについて説明を行った後、遺構検出作業に入る。包含層から弥生土器が多く出土する。
- 4/5 調査区西側の移植予定の楓の下に弥生時代の住居址が検出される。木を生かしながらの検出に手間取る。
- 4/8 協同測量社の基準点・水準測量が今日から入る。
- 4/9 検出作業を一段落させ、調査区東側の遺構の切り合い部分を精査する。
- 4/10 本日から SB-01, 04, 13 の遺構の掘り上げに入る。いずれの住居址からも弥生土器出土。上田市文化財保護審議会五十嵐幹雄氏が来訪する。
- 4/11 SB-01, 04, 06, 13 の遺構の掘り上げを行う。
- 4/12 SB-04 北の切り合いを精査するが、よくわからない。
- 4/16 繊維学部と調査の進捗について協議する。予定では 20 日までに現地調査を終了する予定であったが、遺構・遺物の出土が予想より多いことから、26 日まで延長してもらう。一方繊維学部からは、至急樹木の移植を行うため、調査区西側の調査を優先することとする。

- 4/17 協議に基づき、調査の主体を調査区西側に集中し、SB-10, 13の掘り上げを行う。SB-13の上の楓の根の回りの土を大きく除き、倒れる危険が生じたため、北野建設にロープを張ってもらう。
- 4/18 SB-13の南に、SB-13を切って住居址があることがわかる。この住居址をSB-15とする。
- 4/19 これまで、SB-04が03を切っているという想定で掘ってきたが、切り合い部の04の覆土中に03の床面が検出され、逆であることが判明する。この時点で、それまで「SB-04B区」で取り上げてきた遺物が、実は「SB-03C区」となり、注記の段階で直すこととする。
- 4/22 SB-01, 06, 13, 15を掘る。15は、排水管の南側で、攪乱が著しく、床面及び掘り方が大幅にとんでいる。また、15の北壁際から磨製の蛤刃の石斧が出土する。
- 地質学の山岸猪久馬氏來訪。SB-01, 02のプランにある赤褐色の岩塊について、この岩は安山岩の溶岩で、いわゆる千曲川火山泥流と一緒に八ヶ岳方面から運ばれたものである、というご教示を得る。
- 4/23 SB-15完掘、SB-09の掘り上げに着手する。
- 4/24 SB-06完掘、SB-07の掘り上げに着手する。
- 4/25 SB-01, 09完掘、SB-03の掘り上げを行う。
- 4/26 SB-03完掘、引き続きSB-04の掘り上げに再度着手する。
- 4/27 協同測量社の測量用航空写真撮影を行う。SB-02, 04, 07の掘り上げを行う。SB-04の北側に想定していたSB-12が、サブトレンチによって、SB-04に収束されることが判明する。
- 4/28 SB-02, 04掘り上げる。
- 4/29 SB-07完掘する。SB-04の掘り上げに集中する。本日で作業員の作業は終了とする。
- 4/30 SB-04ピット掘り上げ。機材を撤収して、現地調査終了する。

この後、上田市天神二丁目の埋蔵文化財整理室で遺物の洗浄、注記、接合、図化及び現地調査で得た各種資料の整理並びに報告書の作成作業を断続的に行い、平成9年2月に本報告書を刊行してすべての調査を終了した。



第1図 調査地位置図(1) S=1/10,000

第二章 遺跡の環境

第1節 自然的環境

今回の調査地のある上田市は、長野県の東部、いわゆる「東信地区」に位置し、上田盆地を中心として発達した地域である。

上田盆地は、典型的な内陸性の気候で、年間平均降水量が1,000 mm前後ときわめて少ない。このため、湧水地や川筋を中心に開発が進展している。

上田盆地の地形を概観的にみると、

- (1) 上田市街地を中心とし、千曲川の東（右岸）に展開する川東平野
- (2) 千曲川の西（左岸）に展開する川西平野
- (3) 川東平野のさらに東、烏帽子山麓に展開する扇状地帯
- (4) 依田川下流の渓谷平野

の4つに分けられ、下町田遺跡は、(1)の川東平野に所在する。

川東平野はさらに、

- ①上田盆地の北東にそびえる四阿山（2,332m）に源を発する神川によってその西岸に形成された扇状地、通称「染屋台地」
- ②神川の回春によってできた段丘が、そのまま千曲川の河岸段丘と連続する3つの段丘
- ③千曲川の氾濫原

によって形成され、その広さは、おおむね33km²であり、下町田遺跡は、②の段丘上に所在する。第1段丘は、「染屋台地」で、厚い疊層の上に2～3mのローム層が堆積して形成されている。上層のローム層が風化して強粘土地帯となっており、自然の流水や湧水は得にくい地域である。

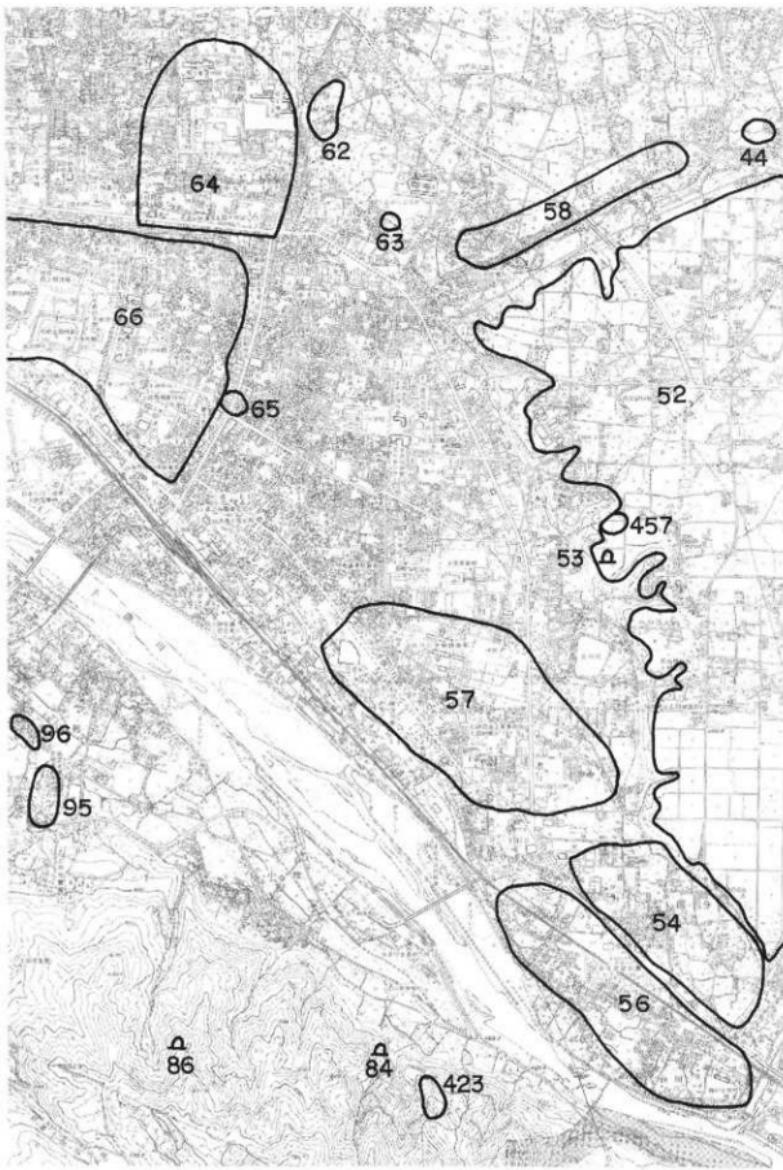
第2段丘は、上田市域の東端、大屋地区から始まり、市街地の南端を通り抜け、市域の西端、秋和地区までつながり、太郎山の山麓に収束される。地層は、下部に礫層があり、その上部に5～7mの火山岩層がある。この火山岩層は、赤褐色の巨大な岩石を含んでおり、これは、火山から押し出した泥流の運んだものである。この第2段丘の地層と、赤褐色の巨大な岩石は、上田城の南の崖、通称「尼ヶ淵」でよく観察できる。

第3段丘は、千曲川の現河床から+2～3mの比高差である。これも、上田市域の東端、人屋地区から始まり、市街地の南東、下堀地区までの間でみられ、信濃国分寺跡の辺りで最大幅を有する弧状を呈する。

下町田遺跡は、この第2段丘上の標高470mに位置し、地質学では、第四紀上田層にあたる。

第2節 歴史的環境

下町田遺跡は、常入遺跡群に包括される8遺跡の中の1遺跡である。前節で述べた第2段丘上の西端と東端、すなわち秋和地区とこの常入地区には、弥生時代から平安時代の遺跡が集中している。中心部には近世上田城下町の遺構が散見できるが、それ以前の遺構については、市街地化のためもあり、不明である。



第2図 周辺遺跡分布図 S=1/20,000

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
44	熱秦寺遺跡	住吉字熱秦寺	繩文	
52	染屋台条里水田跡遺跡	上野・住吉・古里・国分	平安	1985年～数次にわたる調査
53	向田古墳	古里字向田	古墳	半壇
54	国分遺跡群	国分字古城・堂浦・屋敷	弥生～平安	
56	国分寺周辺遺跡群	国分字仁王堂～明神前他	繩文～平安	1994年県埋文センター調査
57	常入遺跡群	常入字塙の内、中常田他	"	下町田遺跡ほか7遺跡
58	金井裏遺跡	上田字金井裏・蟹原	"	1985・1996年上田市調査
62	雁堀遺跡	上田字雁堀	弥生・平安	
63	西丘遺跡	上田字西丘	平安	
64	八幡裏遺跡	上田字思川・大星前他	繩文～平安	1994・96年上田市1～4次調査
65	海野遺跡	上田字海野	弥生・平安	
66	上田城跡	上田字二の丸	近世	
84	六句古墳	小牧字六句	"	"
86	初太郎古墳	小牧字花水	"	"
95	渋取田遺跡	諏訪形字渋取田・中堰	繩文	
96	中沢遺跡	諏訪形字中沢	平安	
423	小牧城跡	小牧字城山	近世	
457	染屋城跡	古里字英	"	

第1表 周辺遺跡一覧表

時代をおってみると、太郎山山麓に縄文時代前・中・後期の遺跡が分布する。中でも、太郎山に源を発する黄金沢扇状地の扇端にある八幡裏遺跡からは、縄文時代後期の敷石住居址群が発掘調査によって検出されている。

弥生時代の遺跡としては、上田盆地ではいまだに前・中期の遺跡は、土器の表採や工事中の出土例はあるものの、遺構を伴った例としては確認されていない。後期では、今回調査した常入跡群が、第二次大戦前から、上田盆地の弥生時代的一大遺跡と認識されている。

古墳時代になると、太郎山山麓に前方後円墳の二子塚古墳、方墳の大藏京古墳が築造されている。後期古墳についても、この山麓に6基ほど散見できるが、いわゆる群集墳的な古墳群は確認されていない。しかし、1987年の下水道工事中に発見された豊原古墳のように、墳丘ごと太郎山から押し出した土砂によって埋もれているケースもあり、地表では確認できない古墳群の存在も想定されるのである。集落遺跡としても、太郎山麓に散見できるが、常入跡群が最大である。1966年に五十嵐幹雄氏らによって、この遺跡群中の下町田遺跡に隣接する西町田遺跡で発掘調査が実施され、上田盆地における古墳時代後期の標識的遺跡として評価されている。

奈良・平安時代になると、市街地化された中心部を除いて、遺跡の分布は第2段丘上を覆うほどになるが、従来の調査結果からは、きわめて密度の薄い遺跡しか確認されていない。この時代、信濃國分寺跡は周知のとおりであるが、問題は、国府所在地である。信濃國の国府が松本平に移る以前は、国分寺の所在する上田地域にあったであろうことは推論されてきたが、いまだに結論を得ない状況である。しかし、この下町田遺跡周辺の信州大学織維学部構内は、有力な候補地として注目を集めている。また、令制東山道も上田盆地を通過し、そのルートについて地名からの研究は深まっているが、考古学的な確証はいまだに得られていない。

中世以降は、「常田荘」が八乘院御領として営まれたものの、中心は千曲川左岸の塙田平の塙田北条氏と仏教文化に移った感がある。しかし、戦国時代の真田氏の上田城築城と城下町形成により再び上田盆地の中心地となり、近世から近代にかけては、「蚕都」として栄え、今回調査を行った信州大学織維学部は、その象徴なのである。

第3節 遺跡の層序

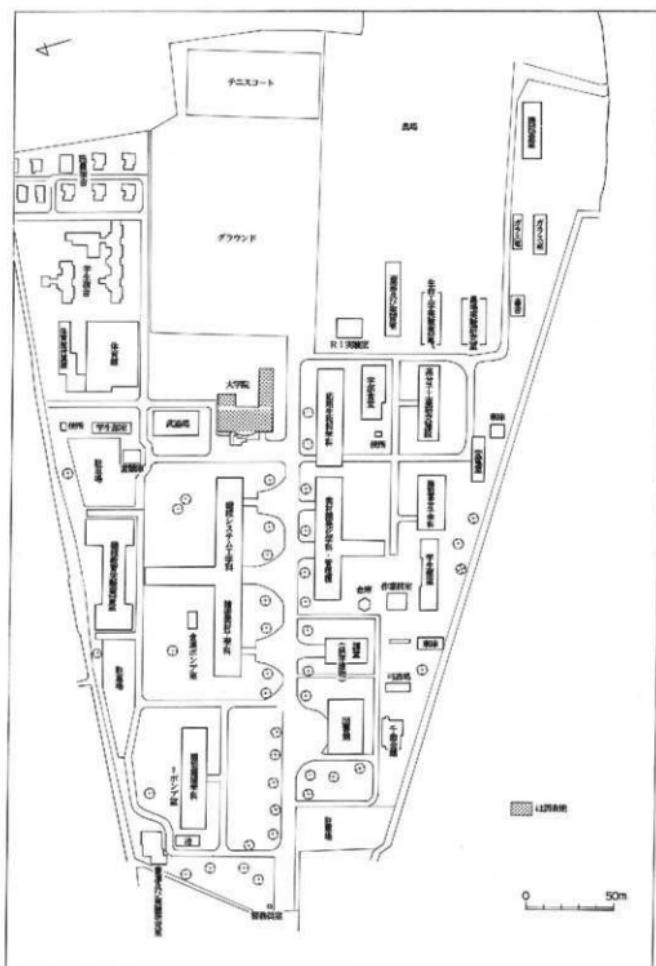
469.8m	GL
469.7m	表土（埋立て）
469.6m	石炭の灰
469.5m	褐灰色砂質土
469.4m	検出面
469.3m	黄橙色砂礫土
469.2m	

今回調査した下町田遺跡の標準土層は、左図のとおりである。表土は埋め立てた土で、その下には、以前石炭ストーブを暖房用に使っていた時代、石炭の灰を、「吸湿性がよい」ということで、庭にまいた層がある。

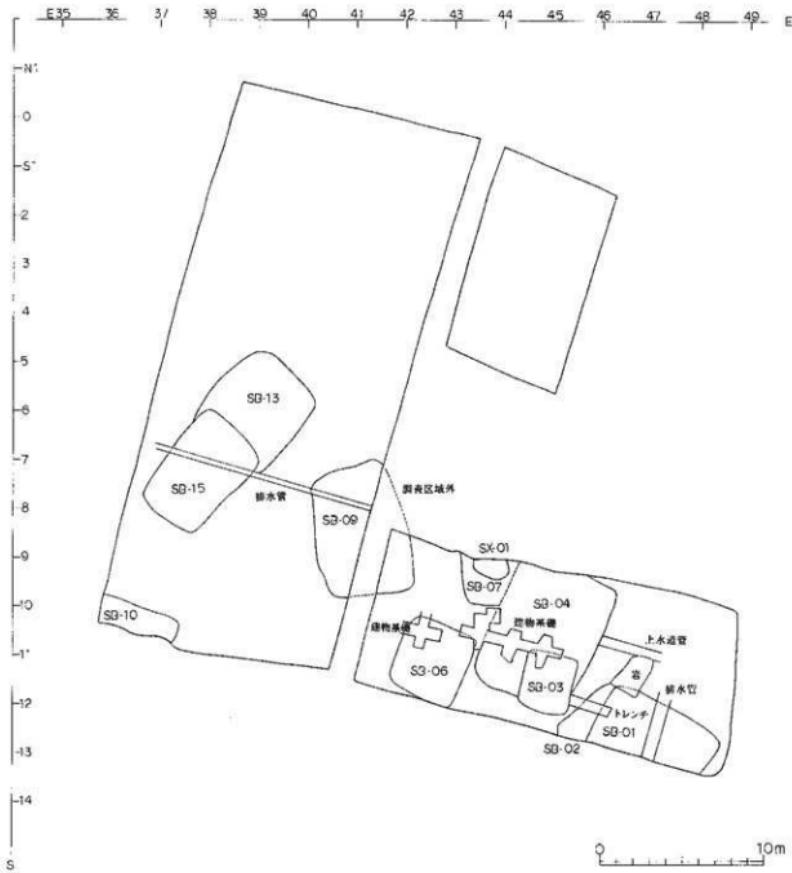
さらにその下には、褐灰色砂質土が30cmあり、おむねGL-50cmから遺構検出面である地山の明るい黄橙色の砂礫層となる。この層は、山岸猪久馬氏の教示によれば、通称「千曲川火山泥流」といわれるものである。

第三章 調査の結果

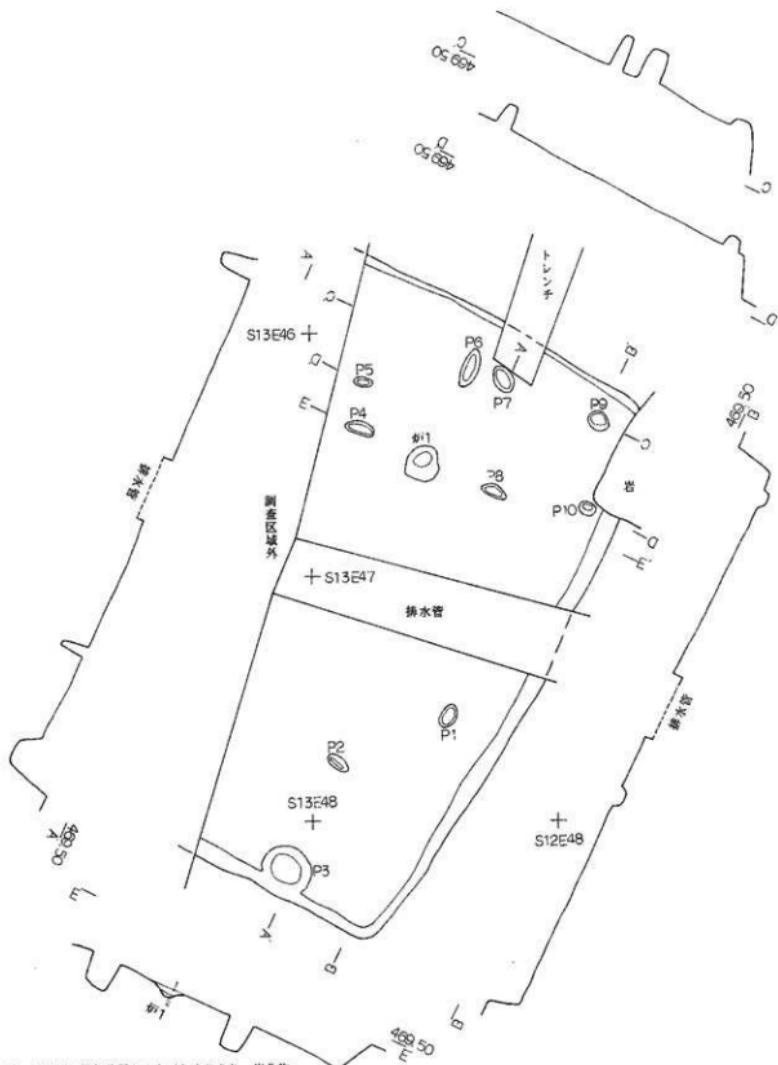
第1節 検出遺構



第3図 調査地位置図(2)



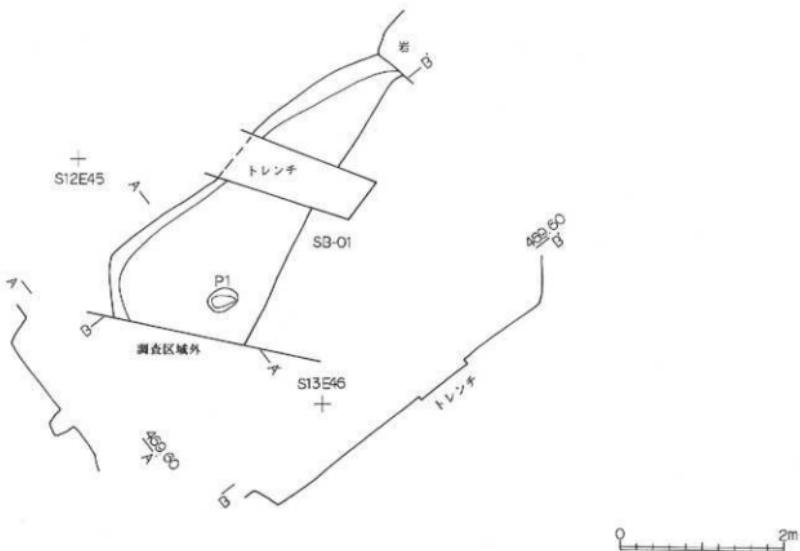
第4図 遺構全体図



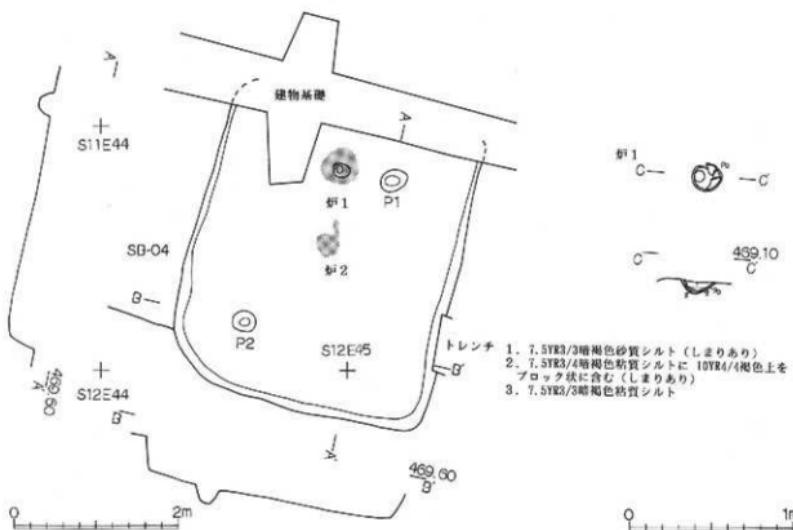
1. 10Y4/4 棕色砂質シルト（しまりあり、炭化物を含む）
2. 10Y3/2 黒褐色粘質シルト（しまりあり、炭化物を含む）

0 2m

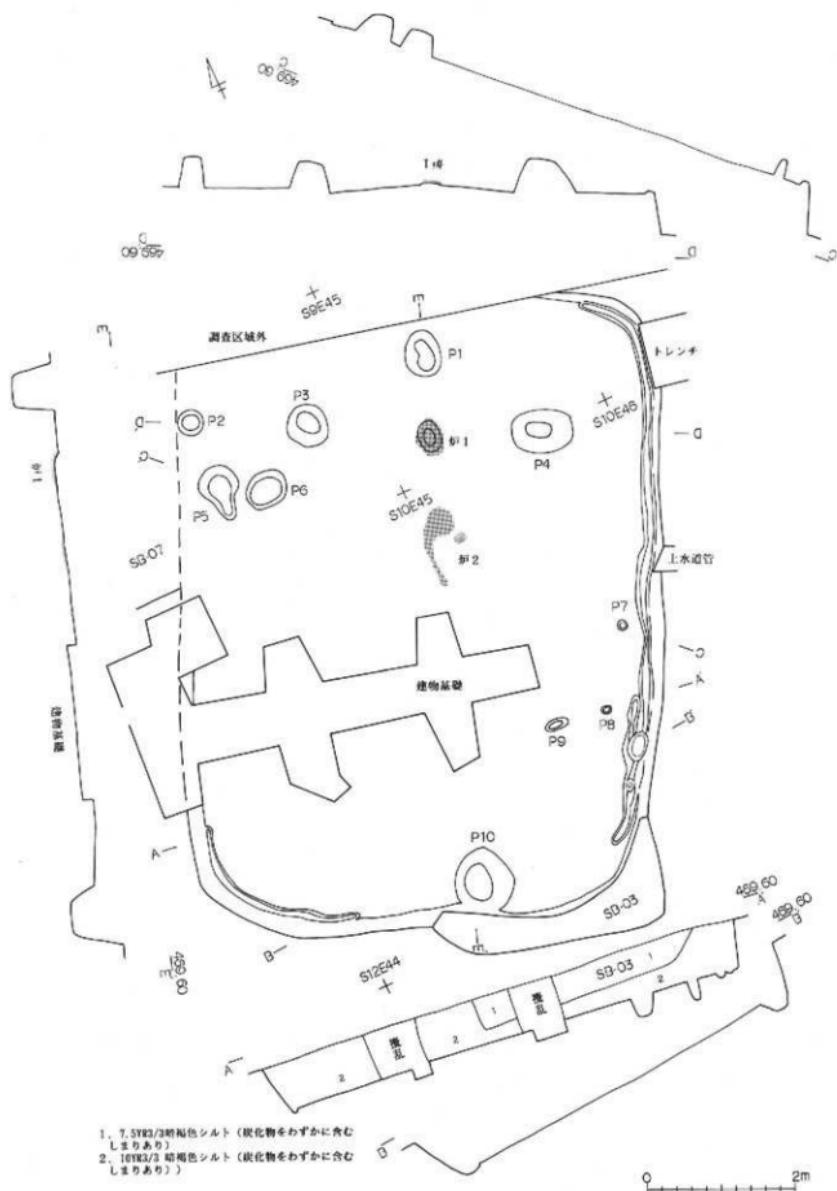
第5図 SB-01 実測図



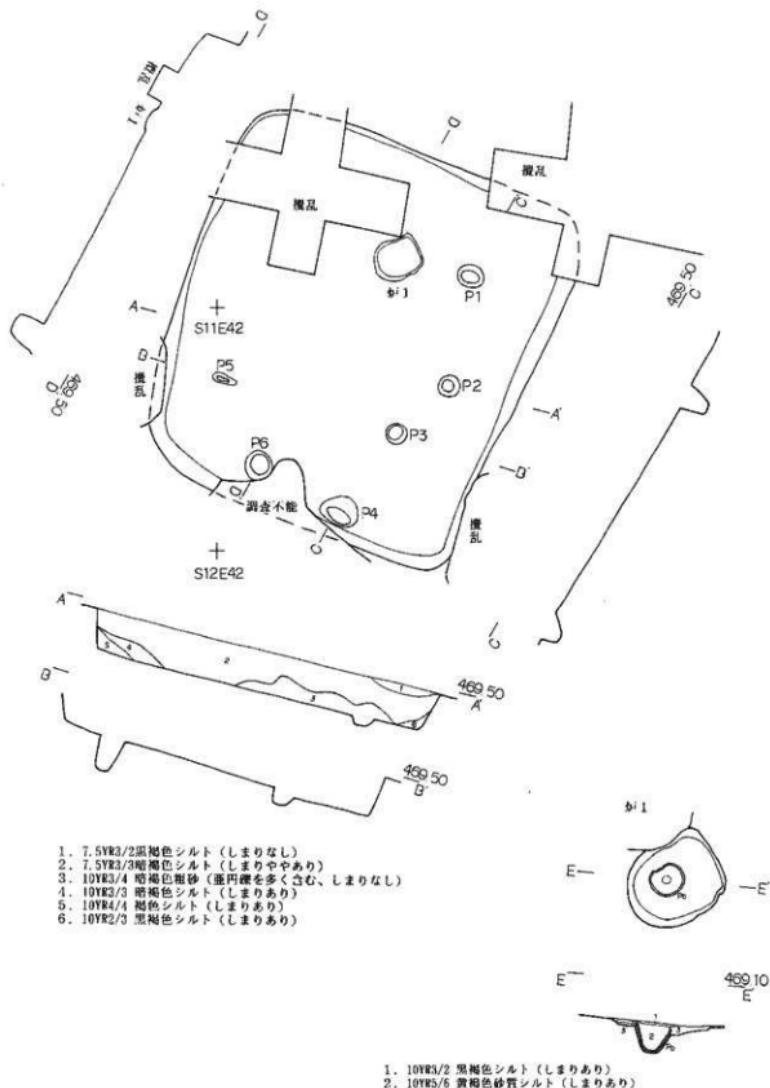
第6図 SB-02 実測図



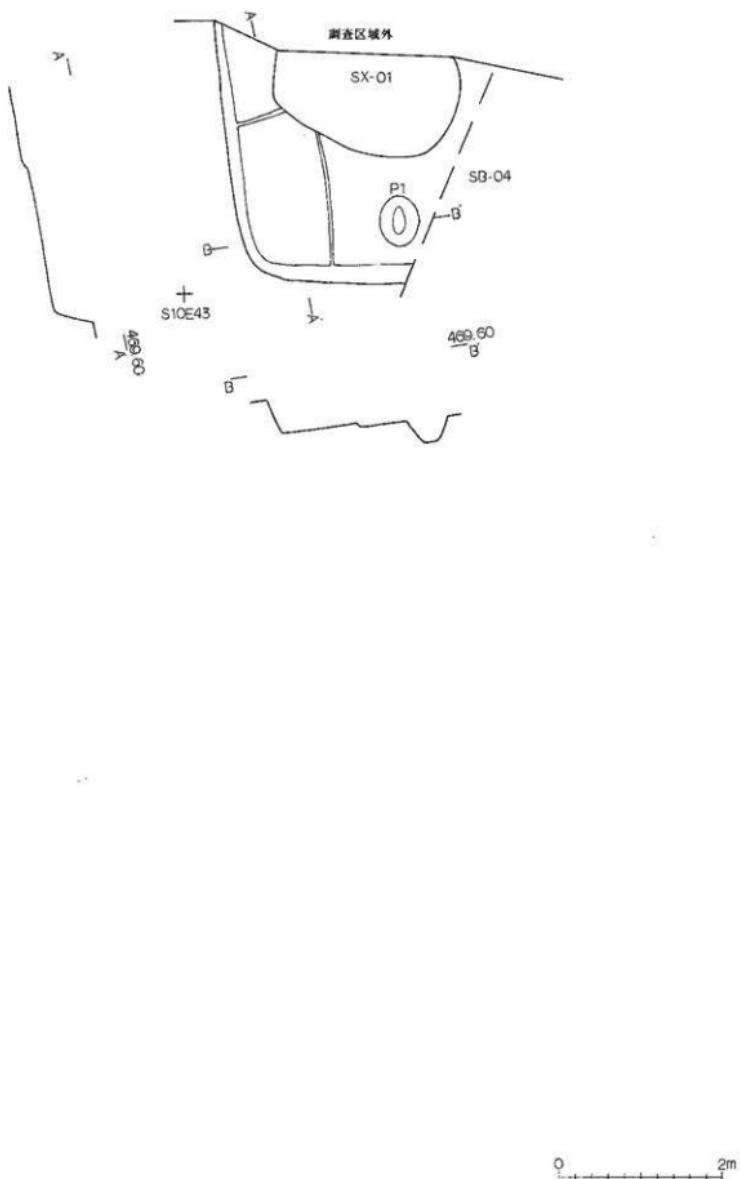
第7図 SB-03 実測図



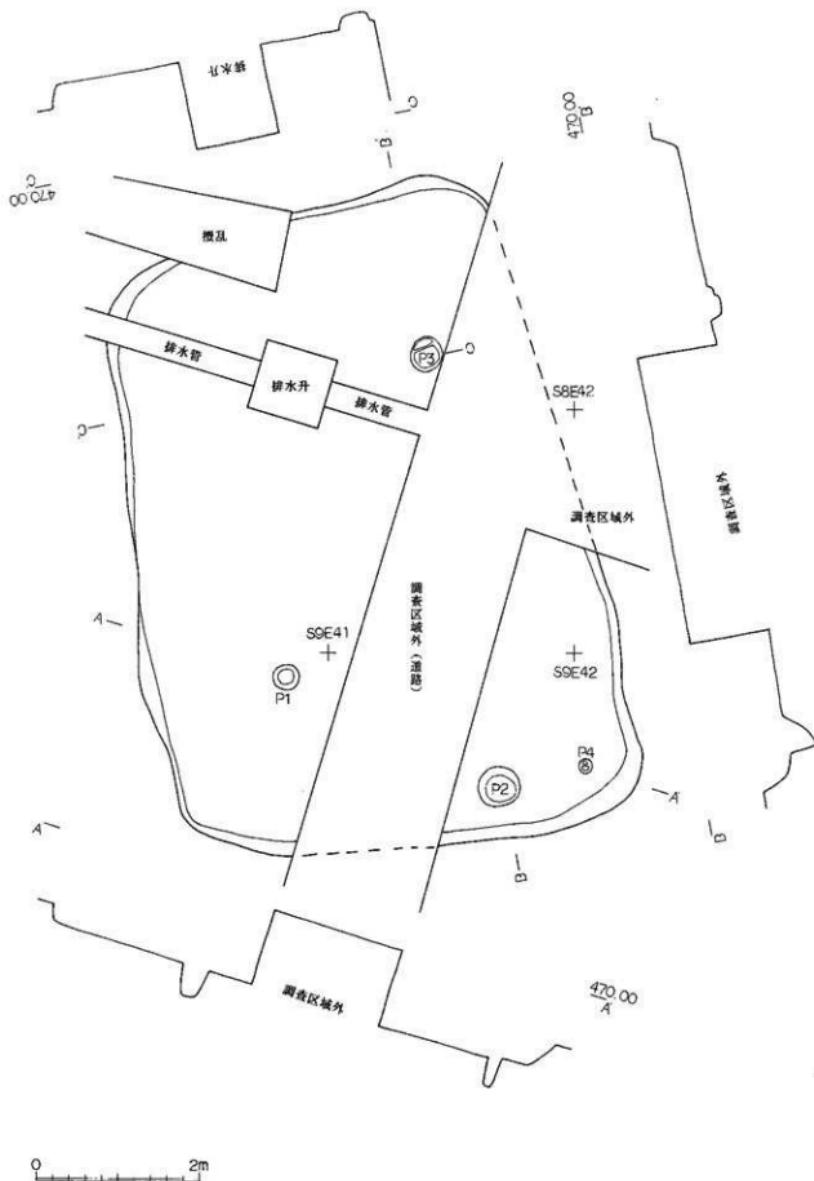
第8図 SB-04実測図



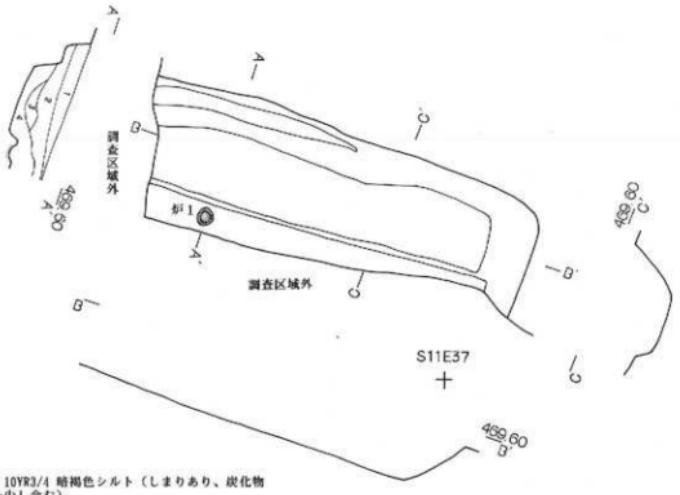
第9図 SB-06 実測図



第10図 SB-07実測図



第11図 SB-09実測図



1. 10YR3/4 結褐色シルト (しまりあり、炭化物を少し含む)
2. 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト (しまりなし、円錐、角錐を多く含む)
3. 10YR2/3 黒褐色シルト (しまりあり)
4. 10YR3/3 暗褐色シルト (しまりなし、亜円錐を含む)

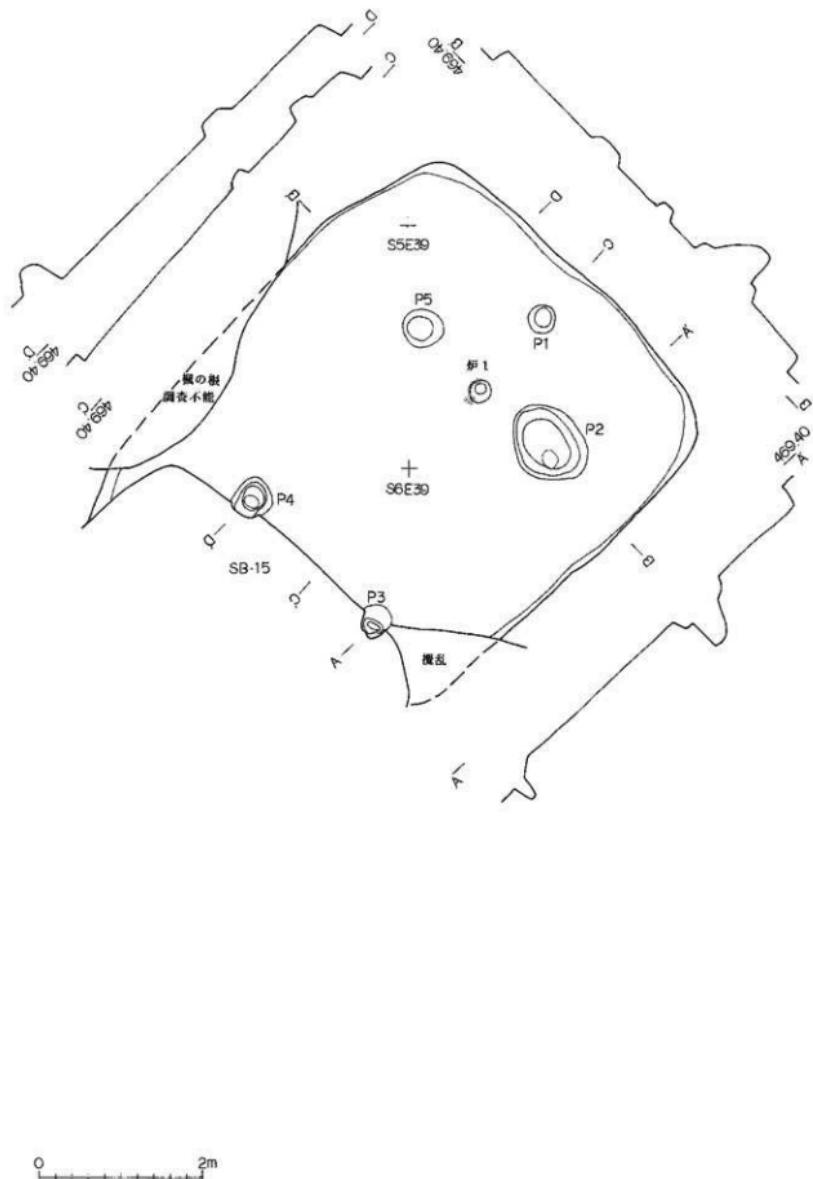
0 2m



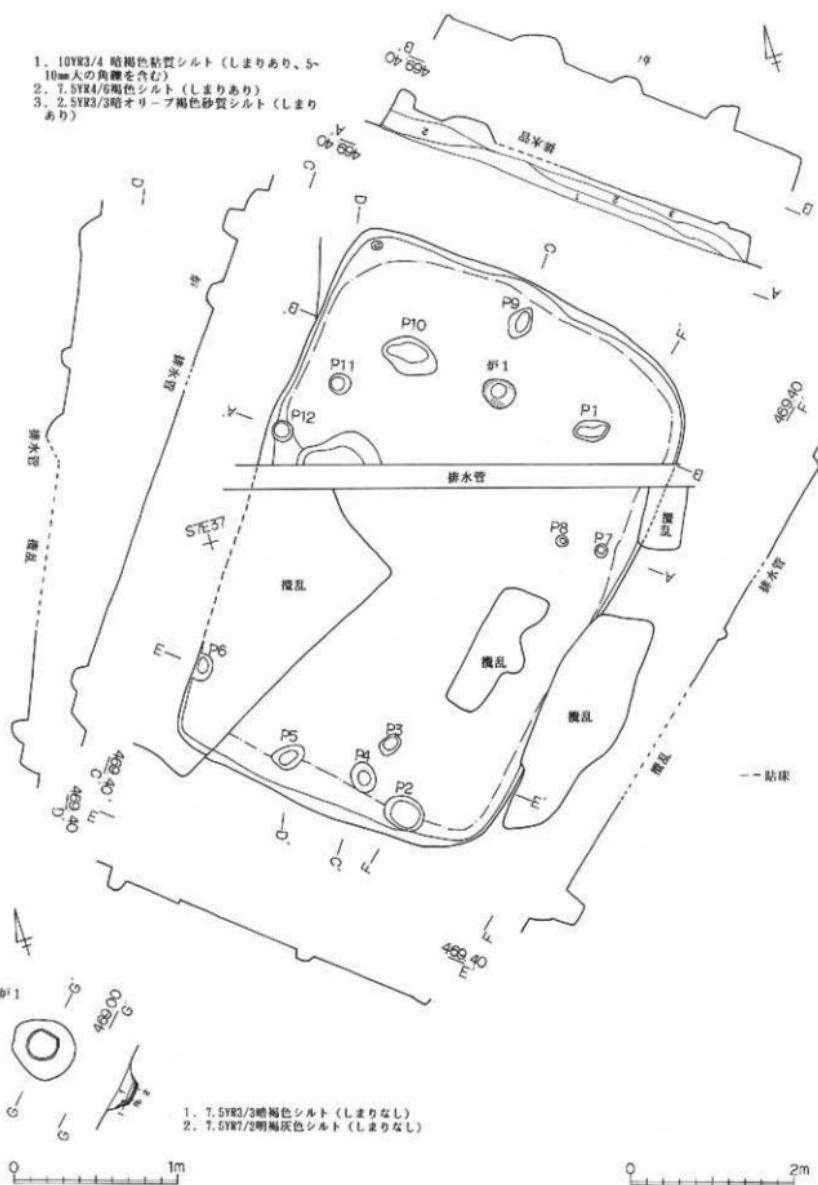
1. 10YR3/3 結褐色砂質シルト (しまりなし)
2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト (しまりなし)
3. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (粘土を含む、しまりなし)

0 1m

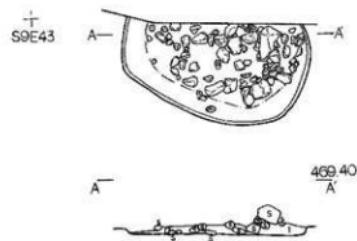
第12図 SB-10実測図



第13図 SB-13実測図



第14図 SB-15実測図



0 2m

第15図 SX-01実測図

造構	S B - 0 1	形態 方位 規模	(隅丸長方形) N - 2 6° - E 7. 5 × 3. 8	壁 高 床 高 床面積 ?	0. 42 (N) ~ 0. 35 (E) 468. 90 ~ 468. 82	炉	位置 規模 深さ	西壁寄り 0. 46 × 0. 44 0. 12	
図版	第 5 図								
柱穴	P1(0. 30 × 0. 19 × 0. 09) P2(0. 29 × 0. 14 × 0. 32) P3(0. 64 × 0. 52 × 0. 26) P4(0. 36 × 0. 17 × 0. 39) P5(0. 23 × 0. 12 × 0. 28) P6(0. 48 × 0. 19 × 0. 28) P7(0. 25 × 0. 23 × 0. 40) P8(0. 32 × 0. 16 × 0. 39) P9(0. 28 × 0. 23 × 0. 09) P10(0. 21 × 0. 16 × 0. 16)								
備考	床は堅く叩き締めた貼り床である。主柱穴は椭円形を呈し、炉は西壁寄りの2本の主柱穴間に位置する。住居構築前から北西角に安山岩の溶岩があり、そのまま構築したと思われる。 覆土は5YR3/3暗赤褐色の拳大cmの礫を含む砂質土である。								

造構	S B - 0 2	形態 方位 規模	(隅丸長方形) (4. 56) × (1. 80)	壁 高 床 高 床面積 ?	0. 32 (SW) ~ 0. 34 (NW) 469. 08 ~ 469. 00	炉	位置 規模 深さ	? ?
図版	第 6 図							
柱穴	P1(0. 36 × 0. 27 × 0. 26)							
備考	住居址の大部分をSB-01に切られている。覆土は5YR3/3暗赤褐色砂質土である。							

造構	S B - 0 3	形態 方位 規模	隅丸長方形 N - 1 2° - E (3. 44) × 3. 22	壁 高 床 高 床面積 ?	0. 32 (S) ~ 0. 40 (W) 468. 91 ~ 468. 95	炉	位置 規模 深さ	北寄り中央 0. 20 × 0. 16 0. 08
図版	第 7 図							
柱穴	P1(0. 35 × 0. 25 × 0. 16) P2(0. 30 × 0. 26 × 0. 18)							
備考	北壁を昔の建物基礎に切られる。炉は土器敷炉で、覆土は5YR3/3暗赤褐色の礫を含む砂質土。							

造構	S B - 0 4	形態 方位 規模	隅丸長方形 N - 1 9° - E (8. 20) × 6. 26	壁 高 床 高 床面積 ?	0. 60 (E) ~ 0. 84 (W) 468. 70 ~ 468. 78	炉	位置 規模 深さ	北寄り中央 0. 42 × 0. 31 0. 08
図版	第 8 図							
柱穴	P1(0. 63 × 0. 48 × 0. 56) P2(0. 34 × 0. 34 × 0. 43) P3(0. 60 × 0. 56 × 0. 40) P4(0. 83 × 0. 60 × 0. 44) P5(0. 75 × 0. 54 × 0. 30) P6(0. 58 × 0. 48 × 0. 30) P7(0. 13 × 0. 13 × 0. 24) P8(0. 13 × 0. 11 × 0. 28) P9(0. 32 × 0. 14 × 0. 28) P10(0. 90 × 0. 80 × 0. 34) P11(0. 41 × 0. 25 × 0. 19)							
備考	南壁上場東側をSB-03に切られ、昔の建物（校舎）基礎に切られる。周溝を運らせ、ピット内から完形に近い弥生土器が出土する。北側は調査区域外になってしまい、調査ができなかったが、住居址の規模は上記の規模からさほど大きくならないと思われる。SB-07との切り合いが不明確のまま掘り上げたが、本住居址がSB-07を切っているようである。							

造構	S B - 0 6	形態 方位 規模	隅丸長方形 N - 2 0° - E (4. 78) × 4. 32	壁 高 床 高 床面積 ?	0. 42 (N) ~ 0. 50 (E) 468. 86 ~ 468. 94	炉	位置 規模 深さ	北寄り中央 0. 60 × 0. 64 0. 19
図版	第 9 図							
柱穴	P1(0. 33 × 0. 28 × 0. 32) P2(0. 26 × 0. 26 × 0. 10) P3(0. 25 × 0. 25 × 0. 19) P4(0. 46 × 0. 37 × 0. 20) P5(0. 31 × 0. 12 × 0. 42) P6(0. 35 × 0. 34 × 0. 33)							
備考	炉の一部を建物基礎に切られる。南壁が調査区域外となり、調査ができなかったが、住居址の規模は上記の規模からさほど大きくならないと思われる。炉には甌の胴部下位～底部がおかれていたほか、P 4 内からは、高环状部が逆位で出土した。							

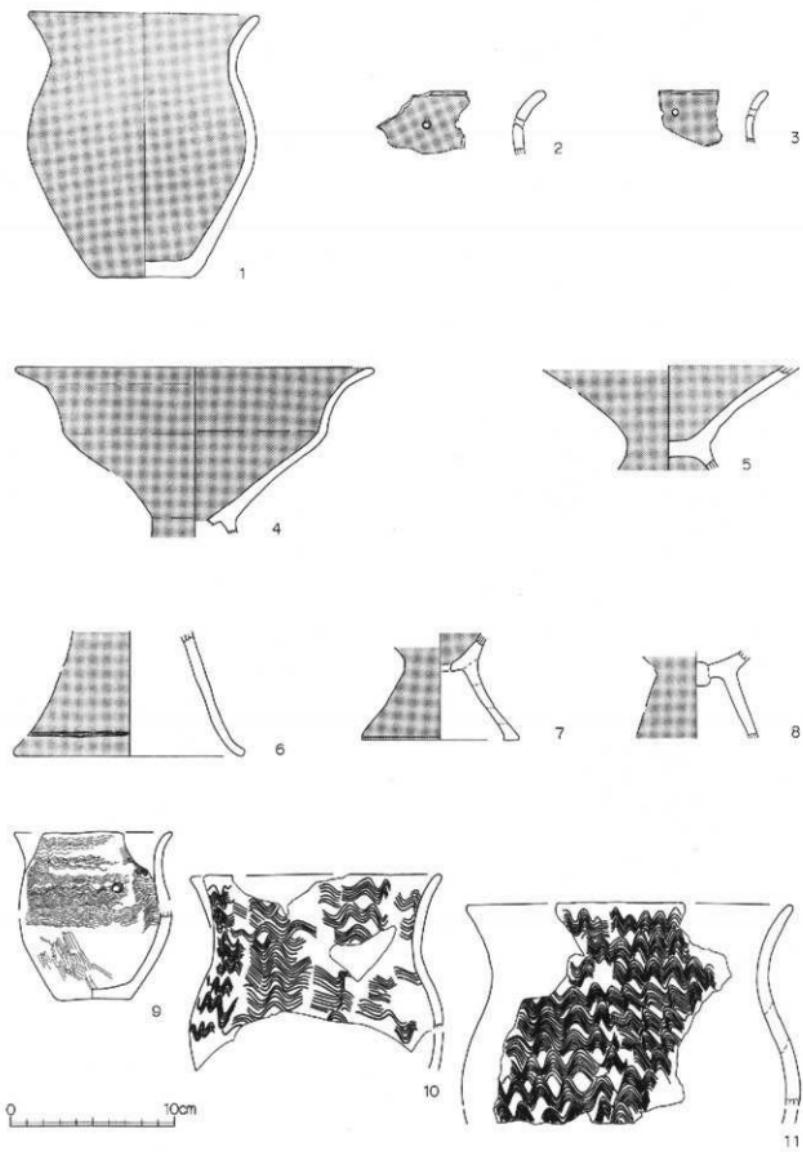
第 2 表 遺構観察表

遺構	S B - 0 7	形態 方位 規模	(隅丸長方形) ? (3.00) × (2.30)	壁 床 床面積	0.42(N) ~ 0.43(S) 468.77 ~ 468.86 ?	炉	位置 規模 深さ	? ?
柱穴	P1(0.61 × 0.48 × 0.29)							
備考	床面南西角に僅かなベッド状の高まりがある。SX-01に住居址中央を切られる。SB-04との切り合いが不明確のまま掘り上げたが、本住居址がSB-04に切られているようである。 覆土は、7.5YR3/3暗褐色の橙～黄色の疊を多量に含むしまりのない砂質土である。							
遺構	S B - 0 9	形態 方位 規模	(隅丸長方形) N - 1 4° - W 7.94 × 5.82	壁 床 床面積	0.19(W) ~ 0.34(SE) 468.83 ~ 468.90 18.79m ²	炉	位置 規模 深さ	? ?
柱穴	P1(0.31 × 0.30 × 0.36) P2(0.50 × 0.48 × 0.32) P3(0.42 × 0.39 × 0.15) P4(0.18 × 0.16 × 0.35)							
備考	住居址北東角が調査区域外になったほか、排水管、污水管が生きていたため、その部分の調査ができなかった。覆土は、7.5YR3/3暗褐色の砂質土である。							
遺構	S B - 1 0	形態 方位 規模	(隅丸長方形) N - 1 8° - E (4.80) × (1.78)	壁 床 床面積	0.61(SE) ~ 0.63(N) 468.74 ~ 468.77 ?	炉	位置 規模 深さ	(北寄り) 0.22 × 0.19 0.07
柱穴	?							
備考	北壁側に擾乱を受けている。大部分が調査区域外のため、不明な点が多い。							
遺構	S B - 1 3	形態 方位 規模	(隅丸長方形) N - 4 7° - E (5.24) × (4.84)	壁 床 床面積	0.20(NW) ~ 0.27(NE) 469.90 ~ 468.96 (24.64)m ²	炉	位置 規模 深さ	北寄り中央 0.26 × 0.26 0.13
柱穴	P1(0.36 × 0.33 × 0.16) P2(1.06 × 0.83 × 0.58) P3(0.42 × 0.36 × 0.41) P4(0.48 × 0.44 × 0.40) P5(0.50 × 0.46 × 0.11)							
備考	南壁をSB-15に切られるほか、西壁が楕の根により調査不能だった。 覆土は、7.5YR4/6褐色～10YR6/8明黄褐色の砂質土である。							
遺構	S B - 1 5	形態 方位 規模	(隅丸長方形) N - 3 5° - E 6.98 × 4.75	壁 床 床面積	0.11(N) ~ 0.33(SE) 468.74 ~ 468.78 31.39m ²	炉	位置 規模 深さ	北寄り中央 0.40 × 0.35 0.14
柱穴	P1(0.45 × 0.26 × 0.28) P2(0.48 × 0.40 × 0.30) P3(0.28 × 0.20 × 0.11) P4(0.38 × 0.30 × 0.14) P5(0.40 × 0.28 × 0.20) P6(0.32 × 0.22 × 0.24) P7(0.15 × 0.17 × 0.04) P8(0.14 × 0.14 × 0.06) P9(0.42 × 0.28 × 0.23) P10(0.70 × 0.56 × 0.23) P11(0.25 × 0.25 × 0.11) P12(0.25 × 0.25 × 0.16)							
備考	SB-13 を切る。住居址南西角に著しい擾乱を受けているほか、污水管で調査不能な箇所があった。床は叩き締められた貼り床だが、壁際30cm前後には貼り床がない。							

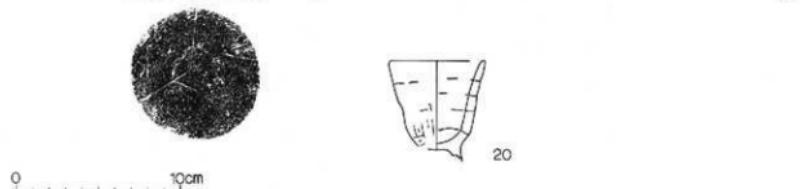
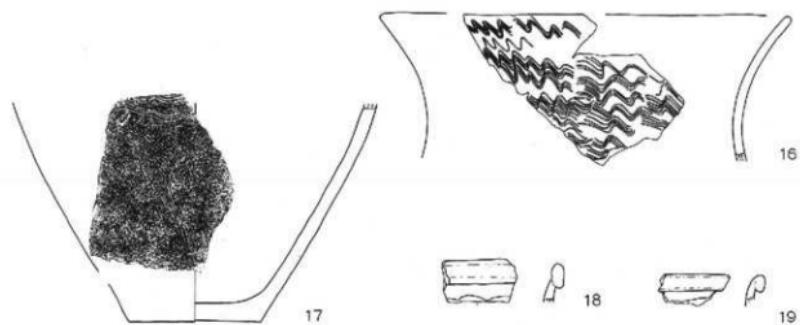
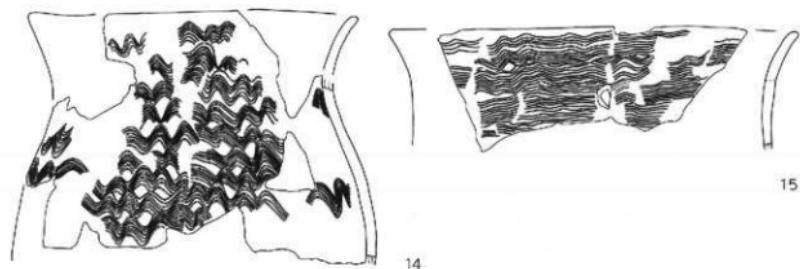
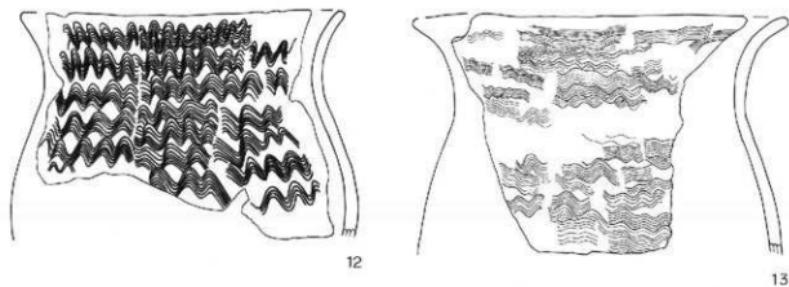
*集石遺構SX-01（第15図）は、SB-07をきって作られており、その掘り方はSB-07床面を僅かに掘り込む。規模は長軸で2.36mを計り、上場標高が469.14m、下場標高が468.73mである。遺構の性格は不明である。

第3表 遺構観察表

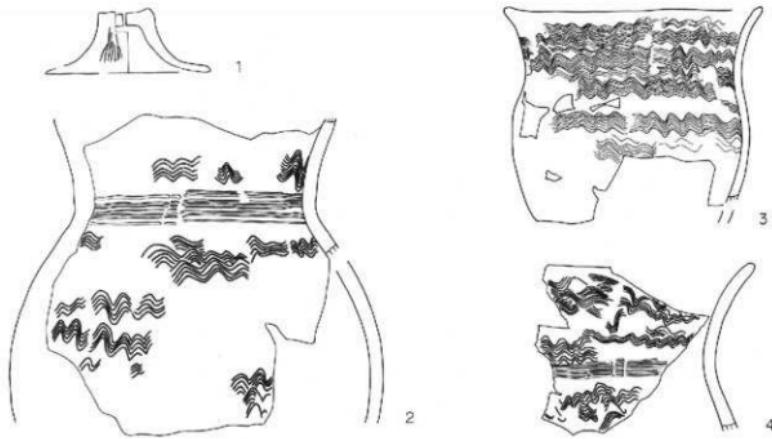
第2節 出土遺物



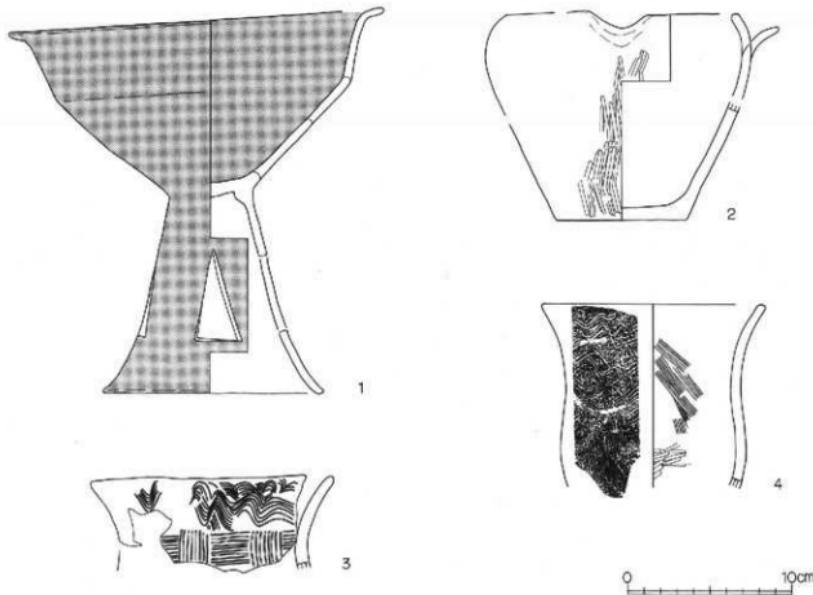
第16図-1 SB-01遺物実測図



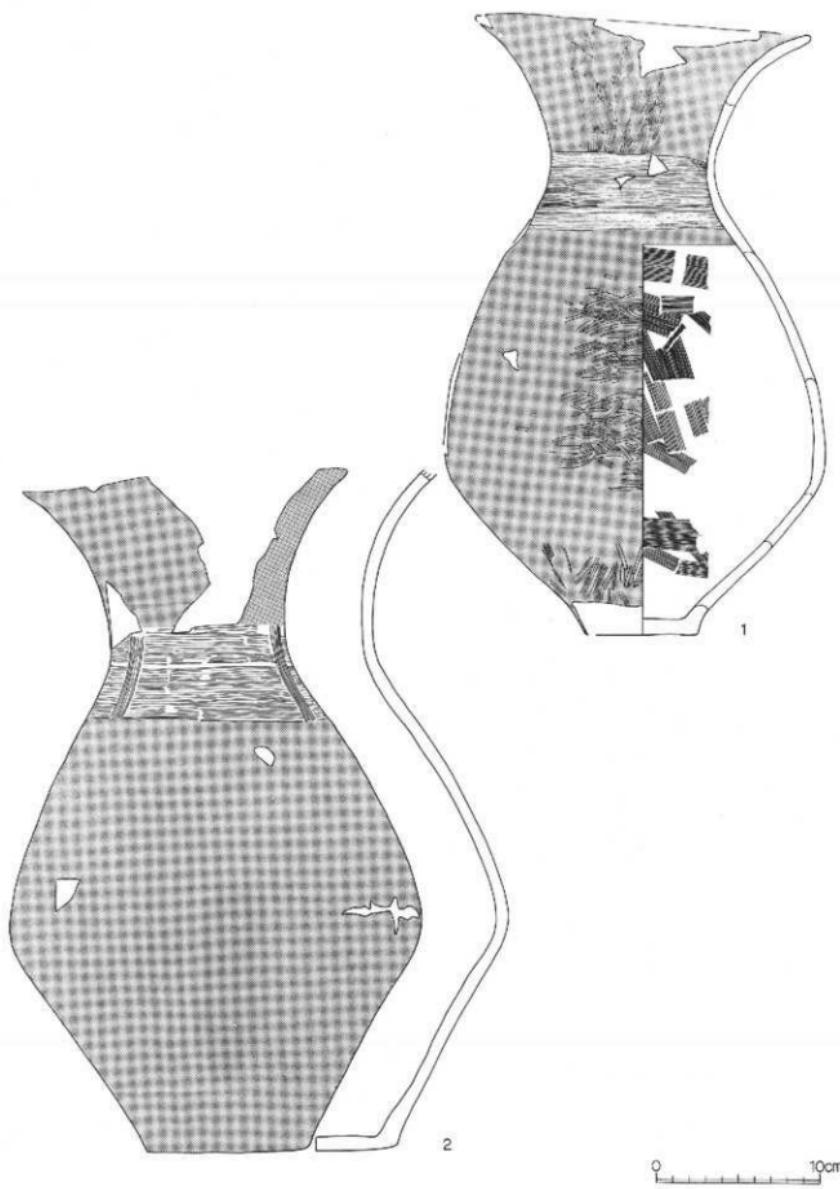
第16図-2 SB-01遺物実測図



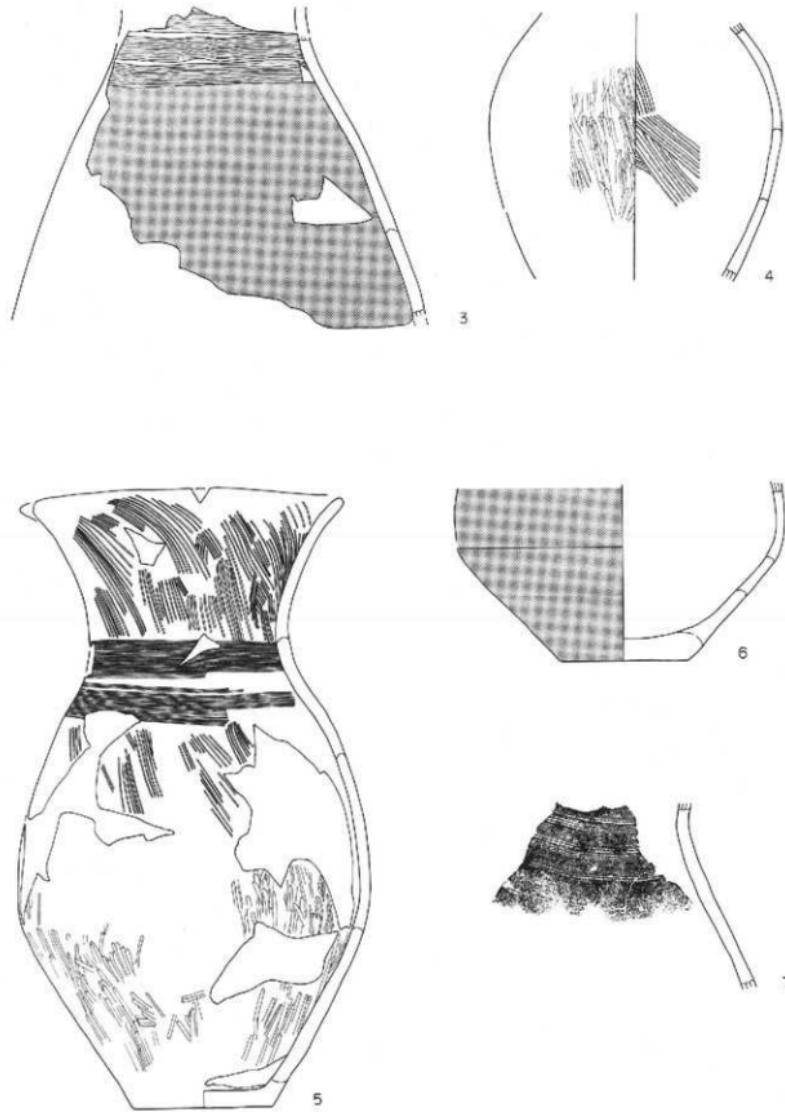
第17図 SB-02遺物実測図



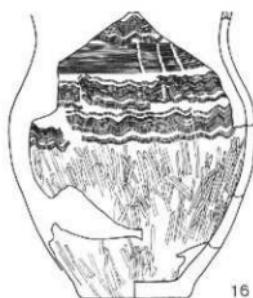
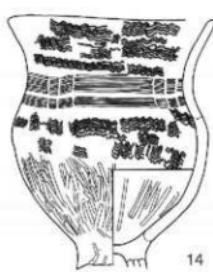
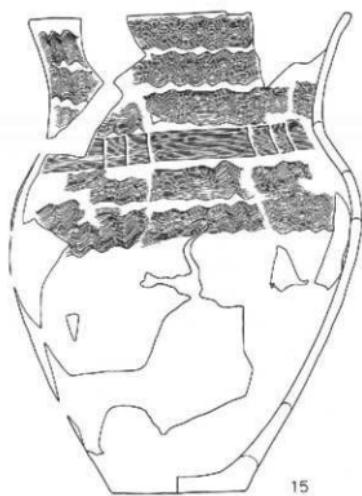
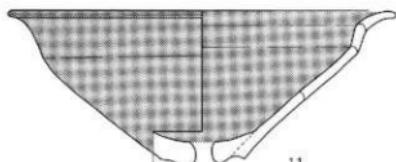
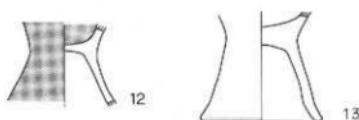
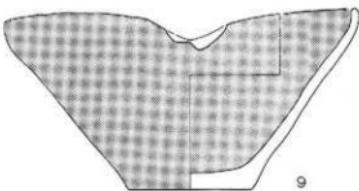
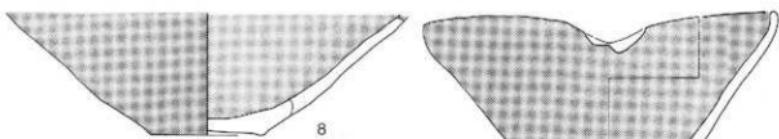
第18図 SB-03遺物実測図



第19図-1 SB-04遺物実測図

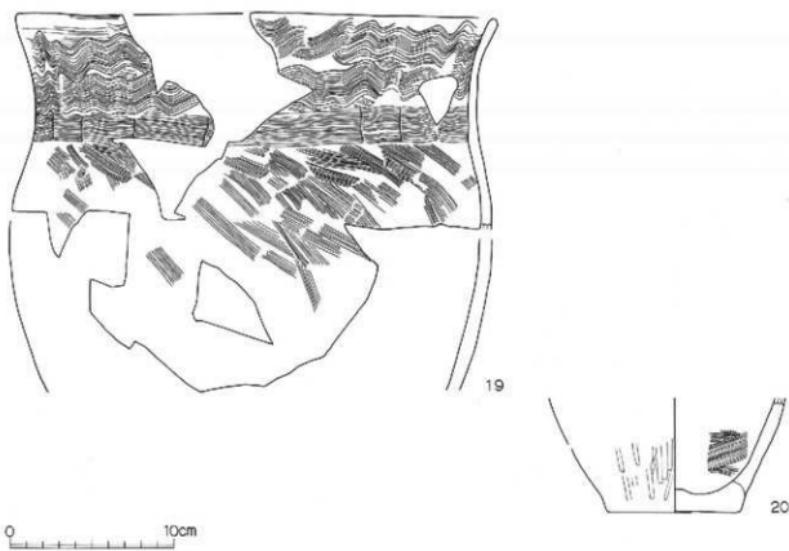
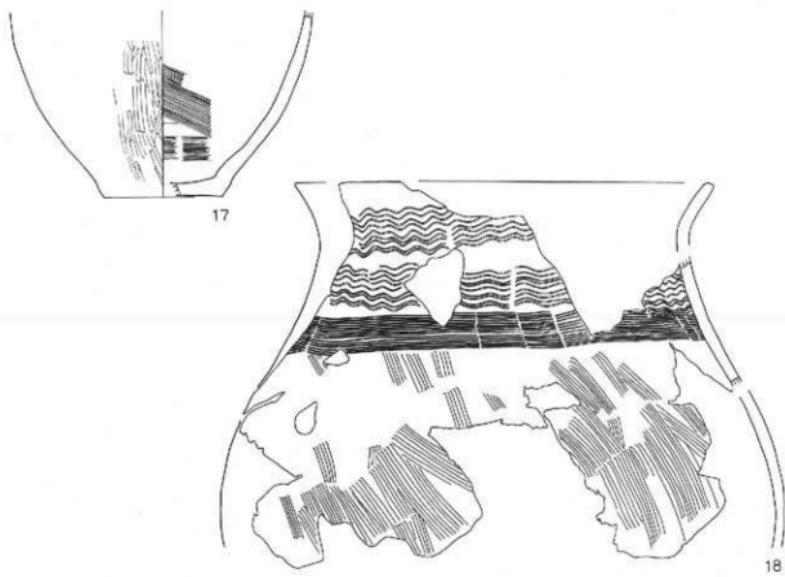


第19図-2 SB-04遺物実測図

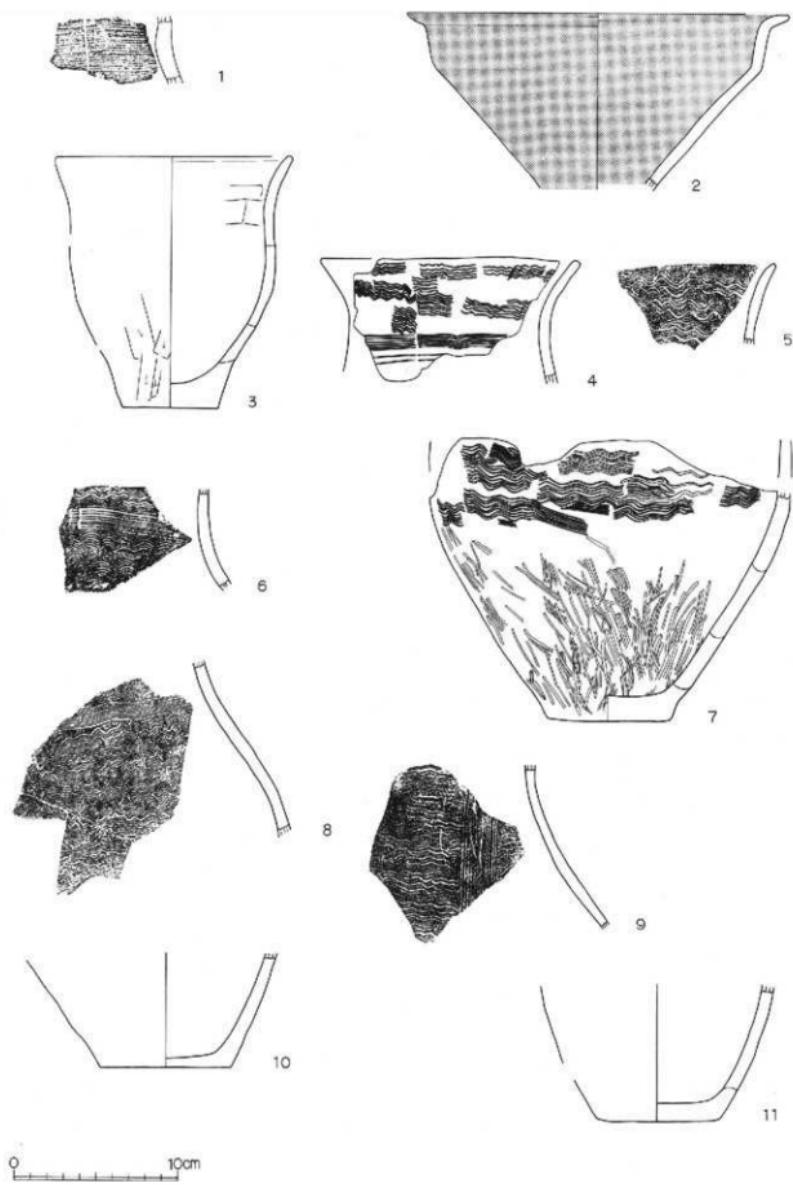


0 10cm

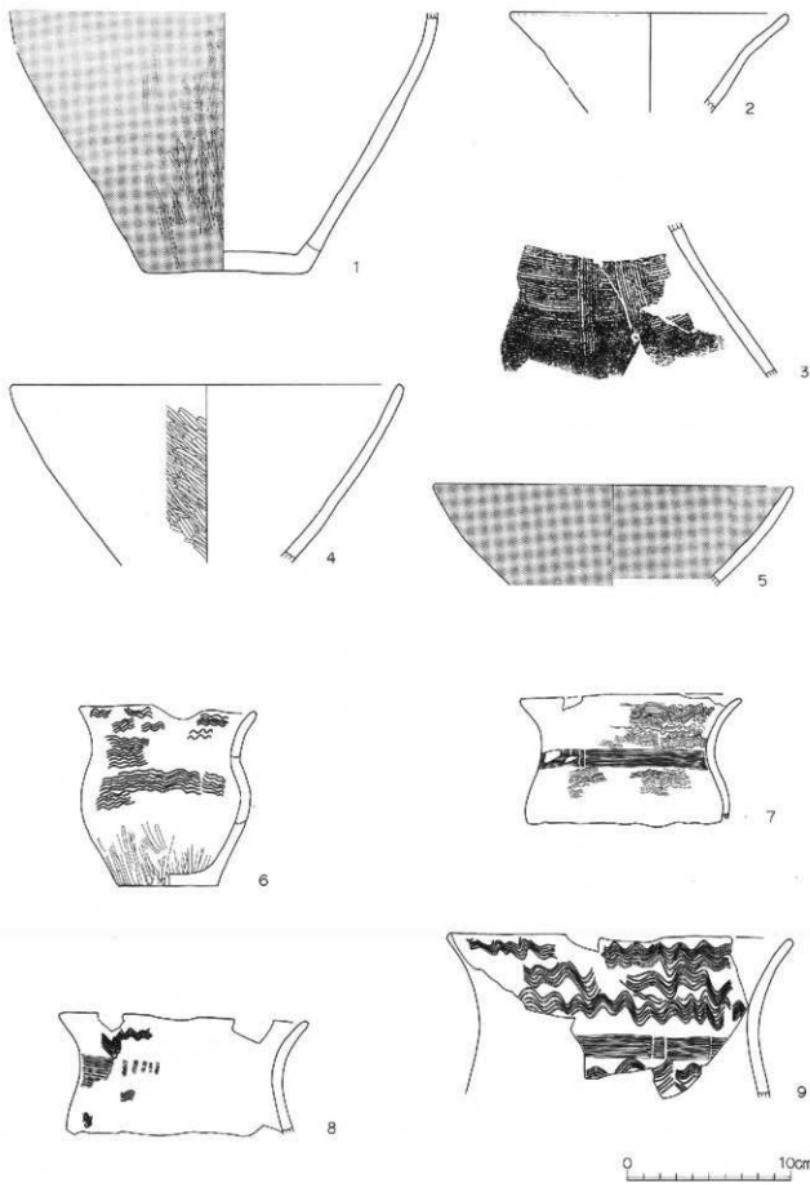
第19図-3 SB-04遺物実測図



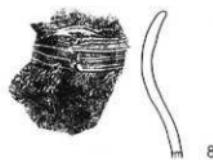
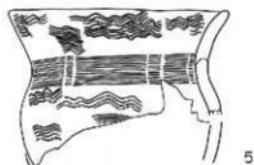
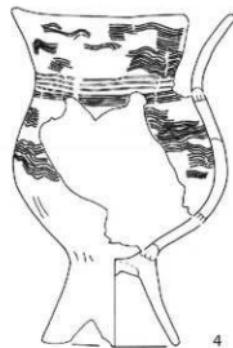
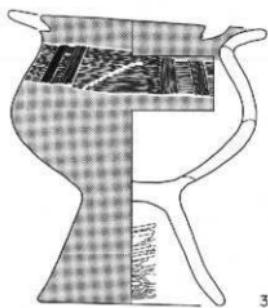
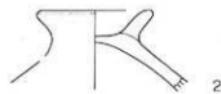
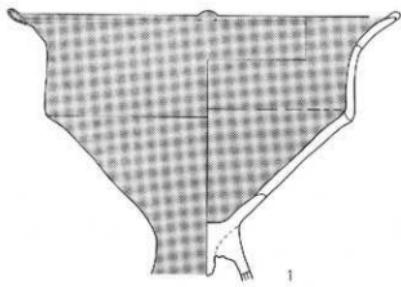
第19図-4 SB-04遺物実測図



第20図 SB-06遺物実測図



第21図 SB-07遺物実測図

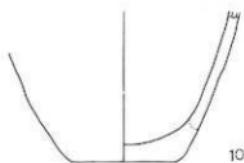


0 10cm

第22図-1 SB-09遺物実測図

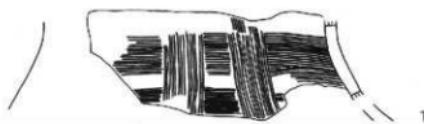


9



10

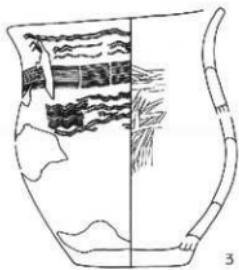
第22図-2 SB-09遺物実測図



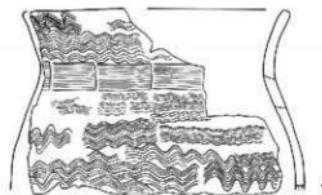
1



2



3



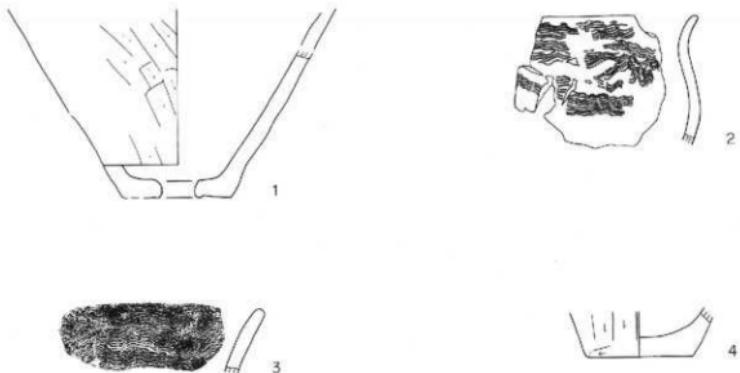
4



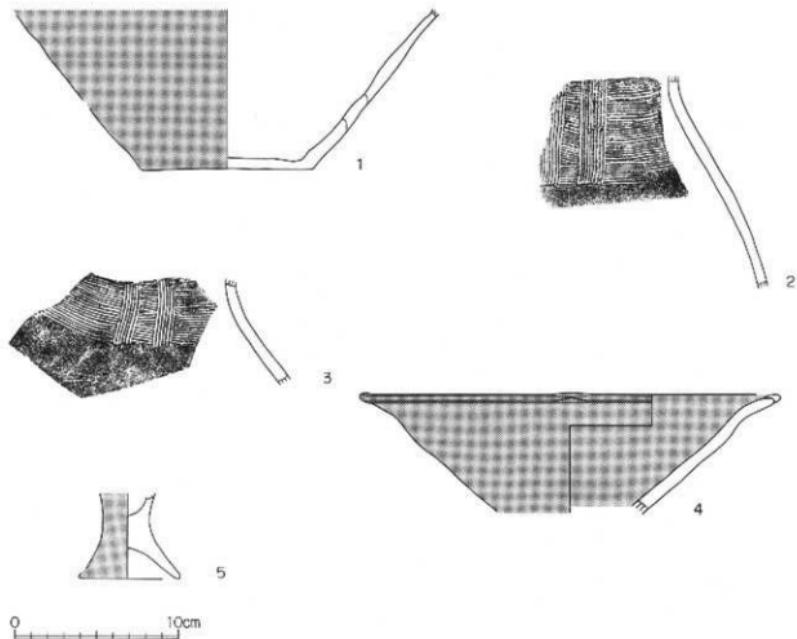
5



第23図 SB-10遺物実測図



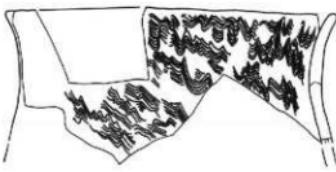
第24図 SB-13遺物実測図



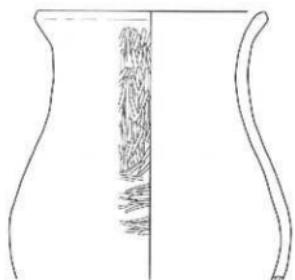
第25図-1 SB-15遺物実測図



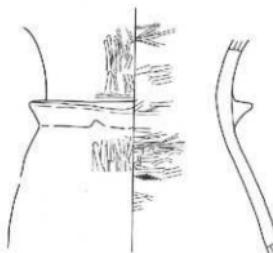
6



7



8



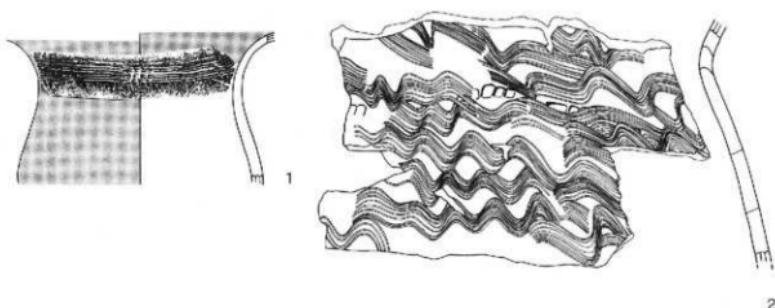
9



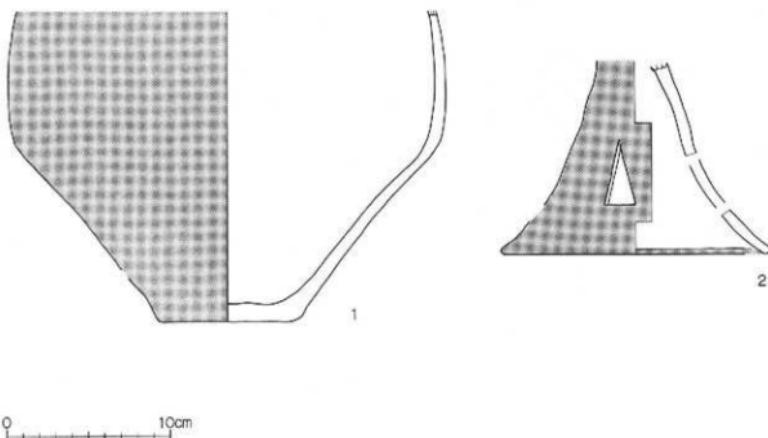
10



第25図-2 SB-15遺物実測図



第26図 SX-01遺物実測図



第27図 遺構外出土遺物実測図

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 及び 残 存	器 質	成形・形態はか	整形はか
SB-01 16図1	深鉢 弥生	口径 14.0 器高 15.1 底径 5.8 ほぼ完存	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (良) 10R4/6赤 (赤色塗彩) (良) 2.5YR5/6明赤褐 (赤色塗彩)	粘土帶積み上げ? 平底の底部から緩やかなS字状に口径まで立ち上がる	(A) 口縁～胴部縫位の 箇磨き、胴部中位～ 下位斜位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-01 16図2	甕 弥生	口径 — 残高 3.8 底径 — 口縁の一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 2.5YR4/6赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR5/6明赤褐 (赤色塗彩)	頸部に5mmの孔2個 を有する	(A) 箇磨き (B) 箇磨き
SB-01 16図3	甕 弥生	口径 — 残高 3.3 底径 — 口縁の一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 2.5YR4/8赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR4/8赤褐 (赤色塗彩)	頸部に5mmの孔2個 を有する	(A) 箇磨き (B) 箇磨き
SB-01 16図4	高环 弥生	口径 22.0 残高 10.4 底径 — 环部1/3	胎: 石英、細砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 2.5YR5/8明赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR5/6明赤褐 (赤色塗彩)	体部は僅かに外反し ながら開き、緩やかな棱を経て大きく外 反する口径に至る	(A) 体部縫位の箇磨き 口縁横位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-01 16図5	高环 弥生	口径 — 残高 6.7 底径 — 胎部・脚部	胎: 石英、細砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 2.5YR4/8赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR3/4暗赤褐 (赤色塗彩)	环体部は外反しなが ら聞く	(A) 縫位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-01 16図6	高环 弥生	口径 — 残高 7.7 裾径 14.1 脚部のみ	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (良) 10R4/8赤 (赤色塗彩) (良) 2.5YR5/6明赤褐	直線的に聞く脚部は 裾で僅かに広がる	(A) 縫位の箇磨き 脊 部に横位の2条沈継 (B) 脚部縫位の箇磨き で 脚部横位の裾で
SB-01 16図7	器台 弥生	口径 — 器高 6.5 裾径 9.5 脚部のみ	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 2.5YR3/6暗赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR3/6暗赤褐 (赤色塗彩) (良) 2.5YR4/6赤褐	粘土紐積み上げ 裾端部は面取り状と なる	(A) 横位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-01 16図8	高环 弥生	口径 — 残高 5.2 底径 — 接合～脚部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 10R4/8赤 (赤色塗彩) (良) 5YR6/6橙	脚内部に环のほぞが 突出する	(A) 縫位の箇磨き (B) 剥離している (C) 横位の裾で
SB-01 16図9	甕 弥生	口径 10.1 器高 10.2 底径 4.6 口縁1/2欠	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 10YR5/2灰黄褐～5YR6/5橙 (良) 10YR4/1褐灰		(A) 口縁～胴部中位に 波状文、胴部下位は 斜位の箇磨き (B) 横位の裾で
SB-01 16図10	甕 弥生	口径 15.0 残高 12.0 底径 — 嘴1/2脚1/3	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (良) 5YR3/2暗赤褐 (良) 5YR5/6明赤褐	頸部の絞りは緩やか	(A) 波状文 (B) 脣で

第4表 遺物観察表(1)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-01 16図11	甕 弥生	口径 19.8 残高 13.4 底径 — 口縁一部	胎：石英、細砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 7.5YR4/3褐色 (B) 5YR5/6明赤褐色	粘土帶積み上げ	(A) 波状文 (B) 横位の撫で
SB-01 16図12	甕 弥生	口径 19.5 器高 13.9 底径 — 口縁1/3	胎：石英、粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 5YR5/3にぶい暗褐色 (B) 5YR5/6明赤褐色	粘土帶積み上げ？	(A) 波状文 (B) 口縁部横位の撫で 胸部削り
SB-01 16図13	甕 弥生	口径 23.0 残高 14.6 底径 — 口縁一部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR3/2暗赤褐色 (B) 5YR4/4にぶい赤褐色	粘土帶積み上げ？	(A) 波状文 (B) 横位の撫で
SB-01 16図14	甕 弥生	口径 20.1 残高 16.6 底径 — 口縁1/6	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR3/3暗赤褐色 (B) 5YR4/8赤褐色		(A) 波状文 (B) 横位の撫で
SB-01 16図15	甕 弥生	口径 24.5 残高 7.4 底径 — 口縁1/3	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR5/4にぶい赤褐色 (B) 2.5YR5/6明赤褐色	粘土帶積み上げ	(A) 波状文 (B) 横位の塗磨き？
SB-01 16図16	甕 弥生	口径 25.0 残高 8.9 底径 — 口縁の一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10YR5/3にぶい黄褐色 (B) 7.5YR6/4にぶい橙		(A) 波状文 (B) 横位の塗磨き
SB-01 16図17	甕 弥生	口径 — 残高 13.3 底径 8.0 縁部 縦縫	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 5YR6/8橙	粘土帶積み上げ	(A) 胸部波状文、刷毛目 (B) 底部木葉痕 (C) 撫で
SB-01 16図18	甕 弥生	口径 — 器高 — 底径 — 口縁の一部	胎：粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	口唇部は、粘土紐を貼付して作る	(A) 横位の撫で (B) 横位の撫で
SB-01 16図19	甕 弥生	口径 — 器高 — 底径 — 口縁の一部	胎：粗細砂粒含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/6橙 (B) 7.5YR6/6橙	口唇部を折り返して作る	(A) 横位の撫で (B) 横位の撫で
SB-01 16図20	高環 弥生	口径 5.7 残高 6.2 底径 — 环部3/4	胎：石英、粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/4にぶい橙—7.5YR6/4 橙 (B) 7.5YR6/6 橙	粘土紐巻き上げ～手捏成型	(A) 环上位横位の撫で 环下位縦位の陥削り (B) 横位の撫で

第5表 遺物観察表(2)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 及 び 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-02 17図 1	蓋 弥生	抓径 3.2 器高 3.8 裾径 10.0 裾部2/3欠	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR4/4にぶい赤褐 (B) 黒	天井部に孔を穿つ	(A) 木山状工具による 縦位の撫で (B) 木口状工具による 横位の撫で
SB-02 17図 2	甕 弥生	口径 — 残高 19.6 底径 — 部1/2幅1/6	胎:石英、粗砂粒、疊含む 焼:良好 色:(A) 5YR4/4にぶい赤褐 (B) 5YR5/6明赤褐		(A) 波状文を施した後 頸部に縦状文を施す (B) 撫で
SB-02 17図 3	甕 弥生	口径 14.7 残高 13.2 底径 — 口縁～脚部	胎:石英、粗砂粒、疊含む 焼:良好 色:(A) 10YR6/1 褐灰～5Y2/1 黒 (B) 10YR5/2 灰褐	粘土帶積み上げ？	(A) 波状文 (B) 横位の箠磨き
SB-02 17図 4	甕 弥生	口径 — 残高 9.8 底径 — 口縁の一部	胎:石英、粗砂粒、疊含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR4/3褐 (B) 5YR6/6橙		(A) 頸部に縦状文を施 した後波状文を施す (B) 横位の撫で
SB-03 18図 1	高环 弥生	口径 23.0 器高 23.5 裾径 13.5 ほぼ完存	胎:細砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5YR4/8赤褐(赤色塗彩) (B) 2.5YR4/8赤褐(赤色塗彩) (C) 7.5YR6/6橙	粘土帶積み上げ 脚に三角形の透かし 窓4つを開ける	(A) 口縁部横位の箠磨 き 坏部～脚部縦位 の箠磨き (B) 横位の箠磨き (C) 横位の箠撫で
SB-03 18図 2	鉢 弥生	口径 14.3 器高 12.6 底径 8.0 脚1/2既	胎:石英、粗砂粒、疊含む 焼:良好 色:(A) 2.5YR4/6赤褐 (B) 5YR5/8明赤褐	口縁の1ヶ所に片口 を設ける	(A) 縦位の箠磨き (B) 横位の箠撫で
SB-03 18図 3	甕 弥生	口径 14.8 残高 5.8 底径 — 口縁1/2	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR4/4にぶい赤褐～5YR4/4にぶい赤褐 (B) 5YR4/4にぶい赤褐		(A) 波状文を施した後 頸部にT字文を施す (B) 横位の箠磨き
SB-03 18図 4	甕 弥生	口径 13.6 残高 11.2 底径 — 口縁～脚部	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR5/6明赤褐 (B) 5YR5/1褐灰	頸部の締まりは極め て緩やか	(A) 波状文 (B) 口縁部横位の撫で 頸部～脚部刷毛目 脚部下位箠磨き
SB-04 19図 1	壺 弥生	口径 20.2 器高 38.0 底径 6.6 脚1/2既	胎:石英、細砂粒含む 焼:良好 色:(A) 10YR3/6 暗赤(赤色塗彩) (B) 7.5YR4/4褐(口縁赤色塗彩)	粘土帶積み上げ 粘土が漏れぬかっ て反しながら立ち、脚下までや がれ縫へて漏れており、縫から 口縫をみて大きくなれる	(A) 縦位の箠磨き (B) 縦位の箠磨き (C) 縦位の箠磨き (D) 細口目は切る
SB-04 19図 2	壺 弥生	口径 20.0 器高 41.6 底径 10.0 脚1/2既	胎:石英、粗砂粒、疊含む 焼:良好 色:(A) 10R3/4暗赤褐 (B) 5YR5/4にぶい赤褐 口縁10R3/4暗赤(赤色塗彩)	粘土帶積み上げ 粘土が漏れぬかっ て反しながら立ち やすやすく削りあとは直角 に削行する 縫は大きく削し、縫 にかけて削る	(A) 頸部～口縁箠磨き 脚部下位箠磨き 脚 部横位の刷毛調整 (B) 口縁部横位の箠磨 き

第6表 遺物観察表(3)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 及 残 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-04 19図3	壺 弥生	口径 — 残高 19.8 底径 — 轆・轂1/2	胎：石英、粗砂粒、疎合む 焼：良好 色：(A) 7.5R3/6 暗赤（赤色塗彩） (B) 5YR5/4にぶい赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 頸部輪描直線文 (B) 横位の木口状工具による撫で
SB-04 19図4	壺 弥生	口径 16.3 残高 — 底径 — 胴部3/4	胎：石英、粗砂粒、疎合む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/8橙	粘土帶積み上げ 胴部は卵形を呈する	(A) 縦位の擦磨き (B) 幅広の刷毛目
SB-04 19図5	壺 弥生	口径 19.8 器高 36.9 底径 8.3 H1/2H3/4既	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 2.5YR6/8橙	粘土帶積み上げ 半底から緩く外反ぎ みに体部中位に立ち上がる	(A) 口縁部～体部中位 刷毛目 頸部輪描文 体部下位擦磨き (B) 擦磨き
SB-04 19図6	壺 弥生	口径 — 残高 10.8 底径 7.8 轆・轂3/4	胎：石英、粗砂粒、疎合む 焼：良好 色：(A) 10R4/6赤（赤色塗彩） (B) 5YR6/6橙	粘土帶積み上げ 平底から外傾して開き、後を経て内弯して立上がる	(A) 擦磨き (B) 撫施で？器面が荒れる
SB-04 19図7	壺 弥生	口径 — 残高 11.4 底径 — 轆・轂1/4	胎：粗砂粒、疎合む 焼：良好 色：(A) 10YR4/6赤（赤色塗彩） (B) 2.5YR5/6明赤褐		(A) 頸部に輪描直線文を施すほか擦磨き (B) 木口状工具による撫で
SB-04 19図8	壺 弥生	口径 — 残高 7.4 底径 6.1 轆・轂1/4	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R3/6暗赤（赤色塗彩） (B) 10R3/6暗赤（赤色塗彩）	粘土帶積み上げ 上げ底の底部から大きく開いて立ち上がる	(A) 横位の磨き (B) 横位の磨き
SB-04 19図9	鉢 弥生	口径 21.6 器高 11.0 底径 7.4 ほぼ完存	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R5/6赤（赤色塗彩） (B) 2.5YK3/1暗赤灰（赤色塗彩）	平底の底部から体部は外傾して開き、口縁部で短く内弯する	(A) (B) 横位の擦磨き
SB-04 19図10	壺 弥生	口径 13.0 残高 4.3 底径 — 轆・轂1/3	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10YR4/6赤（赤色塗彩） (B) 10YR4/6赤（赤色塗彩）	頸部に一对2ヶの小孔を有す	(A) 横位の擦磨き (B) 横位の擦磨き
SB-04 19図11	器台 弥生	口径 23.8 残高 9.0 底径 — 環部3/4	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R3/6暗赤（赤色塗彩） (B) 10R3/6暗赤（赤色塗彩）	粘土帶積み上げ 焼成前から环部に穴を穿っている。	(A) 縦位の擦磨き (B) 横位の擦磨き
SB-04 19図12	高环 弥生	口径 — 残高 5.2 底径 — 接合部のみ	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R4/4赤褐（赤色塗彩） (B) 10R4/4赤褐（赤色塗彩） (C) 5YR6/6橙		(A) 縦位の擦磨き (B) 环部擦磨き 脚部横位の撫施で 及び一部に刷毛目

第7表 遺物観察表(4)

遺物No 図版No	器種 種類	法量 残存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-04 19図13	高環 弥生	口径 — 底径 7.4 脚部完存	胎：石英、粗砂粒、0.3 の疊合む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙～5YR6/3にぶい橙 (B) 7.5YR5/2灰褐（脚部）		(A) 縦位の鉛磨き (B) 横位の撫で
SB-04 19図14	台付壺 弥生	口径 12.7 底径 15.3 口縁部～胴部ほぼ完存	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR5/6明赤褐 (B) 2.5YR3/2暗赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁部抜き、脚部3辺止めの鉛 磨、脚部立筋抜き、脚部下端止め 鉛磨 (B) 口縁部の削り、脚部側の削 り、脚部の脚と脚部側の脚
SB-04 19図15	壺 弥生	口径 19.8 器高 29.1 底径 8.2 口1/3H-款	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR4/3褐～黒 (B) 5YR3/36褐～5YR4/4にぶい褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁部抜き、脚部3辺止めの鉛 磨、脚部立筋抜き、脚部下端止め 鉛磨 (B) 剥り目、脚部側の削 り、脚部側の脚
SB-04 19図16	壺 弥生	口径 — 残高 17.4 底径 6.4 口1/3H1/2	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR4/4にぶい赤褐 (B) 2.5YR3/3暗赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁部抜き、脚部3辺止めの鉛 磨、脚部立筋抜き、脚部下端止め 鉛磨 (B) 縦位の鉛磨き
SB-04 19図17	壺 弥生	口径 18.5 残高 11.3 底径 7.7 脚部・脚1/3	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙		(A) 縦位の鉛磨き (B) 横位の刷毛目
SB-04 19図18	壺 弥生	口径 25.5 残高 28.0 底径 — 嘴・脚等	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙～5YR5/2灰褐 (B) 5YR6/6橙～5YR5/2灰褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁部抜き、脚部3辺止めの鉛 磨、脚部立筋抜き (B) 木口状工具による 撫で
SB-04 19図19	壺 弥生	口径 29.5 残高 23.0 底径 — 嘴・脚等	胎：石英、粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/8赤褐	頸部が緩やかにくび れ、口縁部はごく僅 かに内弯気味に開く	(A) 口縁部抜き、脚部3辺止めの鉛 磨、脚部立筋抜き (B) 横位の刷毛目調整
SB-04 19図20	壺 弥生	口径 — 残高 7.0 底径 10.2 脚部・脚	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/8橙 (B) 5YR5/8明赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 縦位の鉛削りの後 鉛磨 (B) 横位の刷毛目
SB-06 20図1	壺 弥生	口径 — 残高 4.1 底径 — 頸部一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR5/8明赤褐 (B) 2.5YR5/8明赤褐		(A) 頸部に柳描直線文 を施した後、縦の沈 線を施す
SB-06 20図2	高環 弥生	口径 23.4 残高 10.8 底径 — 环部3/4	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR4/8赤褐（赤色塗彩） (B) 2.5YR4/8赤褐（赤色塗彩）	环部下位から稜を経 て屈曲外反し、口縁 部でさらに外反して 開く	(A) 口縁部横位の鉛磨 き 环部縦位の鉛磨 き (B) 横位の鉛磨き

第8表 遺物観察表(5)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-06 20図3	壺 弥生	口径 14.5 底径 5.8 寸2/3~寸3/4	胎:粗砂粒、0.2の疊合む 焼:良好 色:(A) 5YR4/4より赤褐色 (B) 5YR6/4より橙~5YR3/2暗赤褐色	粘土帶積み上げ	(A) 節削りの後撫で (B) 横位の箇削りの後 撫撫で
SB-06 20図4	壺 弥生	口径 15.4 底径 7.5 寸1/4	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 5YR5/3にぶい赤褐色		(A) 口縁部波状文 頸部縦状文 (B) 横位の撫で
SB-06 20図5	壺 弥生	口径 — 底径 5.0 寸縁部一部	胎:粗砂粒、疊合む 焼:良好 色:(A) 5YR5/6明赤褐色 (B) 5YR5/4にぶい赤褐色		(A) 口縁部波状文 (B) 横位の撫で
SB-06 20図6	壺 弥生	口径 — 底径 5.7 寸縁部一部	胎:石英、粗砂粒、疊合む 焼:良好 色:(A) 5YR6/8橙 (B) 7.5YR4/6褐色		(A) 縱状文及び波状文 (B) 横位の撫で
SB-06 20図7	壺 弥生	口径 — 底径 17.4 寸縁~寸5	胎:石英、粗砂粒、疊合む 焼:良好 色:(A) 2.5YR4/6赤褐色 (B) 2.5YR4/8赤褐色	粘土帶積み上げ	(A) 脊部中位波状文 脊部下位距離き (B) 横位の距離き
SB-06 20図8	壺 弥生	口径 — 底径 11.8 寸縁~寸5	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/8橙		(A) 波状文を施した後 縦状文を施す (B) 横位の距離き
SB-06 20図9	壺 弥生	口径 — 底径 9.6 寸縁~寸5	胎:石英、粗砂粒、疊合む 焼:良好 色:(A) 5YR6/8橙 (B) 5YR6/8橙		(A) 波状文を施した後 縦位に櫛歯状工具で 施文 (B) 篇撫で
SB-06 20図10	壺 弥生	口径 — 底径 7.0 寸縁~寸5	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5YR5/6明赤褐色 (B) 5YR5/8~5YR3/4 暗赤褐色	歪みが大きい	(A) 縱位の箇削りの後 距離き (B) 横位の撫で
SB-06 20図11	壺 弥生	口径 — 底径 8.4 寸縁~寸5	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5YR5/6明赤褐色 (B) 2.5YR5/8明赤褐色~2.5YR4/3に ぶい赤褐色	粘土帶積み上げ	(A) 篇削りの後撫で (B) 撫で
SB-07 21図1	壺 弥生	口径 — 底径 16.0 寸縁~寸5	胎:石英、粗砂粒、疊合む 焼:良好 色:(A) 2.5YR4/8赤褐色(赤色塗彩) (B) 5YR6/8橙		(A) 縱位の距離き (B) 横位の撫で

第9表 遺物観察表(6)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-07 21図2	壺 弥生	口径 16.8 残高 6.0 底径 — 口縁部完存	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/4にぶい橙～5YR1.7/1黒 (B) 5YR5/8明赤褐～5YR1.7/1黒	口縁部中位で僅かに屈曲外反して開く	(A) 縦位の鏡磨き (B) 横位の鏡磨き
SB-07 21図3	壺 弥生	口径 — 残高 9.0 底径 — 頸部一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/8橙		(A) T字文 (B) 刷毛撫で
SB-07 21図4	鉢 弥生	口径 24.0 残高 11.0 底径 — 嘴1/3溝1/3	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/8橙 (B) 5YR6/8橙	体部は内弯気味に開く	(A) 斜位の鏡磨き (B) 横位の鏡磨き
SB-07 21図5	鉢 弥生	口径 23.6 残高 6.2 底径 — 口縁部1/6	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R4/8赤(赤色塗彩) (B) 10R4/8赤(赤色塗彩)	体部は内弯気味に開く	(A) 縦位・斜位の鏡磨き (B) 横位の鏡磨き
SB-07 21図6	壺 弥生	口径 10.6 器高 11.0 底径 6.1 口縁一部欠	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 5YR4/2灰褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁～胴部上位波状文 胴部下位笠割りの後鏡磨き (B) 口縁部横位の鏡磨き 胴部陰撫で
SB-07 21図7	壺 弥生	口径 13.6 残高 8.0 底径 — 口縁～胴部上位	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR3/3暗赤褐 (B) 2.5YR4/4にぶい赤褐	粘土帶積み上げ？	(A) 頸部3速止めの簾状文 口縁部・胴部上位波状文 (B) 口縁部横位の撫で 胴部～胴部鏡磨き
SB-07 21図8	壺 弥生	口径 15.2 残高 7.3 底径 — 嘴～縫接	胎：石英、粗砂粒、疊含む 焼：良好 色：(A) 10R4/4赤褐 (B) 10R4/4赤褐		(A) 口縁・胴部上位波状文 頸部簾状文 (B) 横位の撫で 外器面荒れている
SB-07 21図9	壺 弥生	口径 21.0 残高 9.8 底径 — 嘴～嘴1/3	胎：石英、粗砂粒、疊含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR4/3褐 (B) 5YR5/4にぶい赤褐		(A) 口縁・胴部上位波状文 頸部簾状文 (B) 木口状工具による横位の撫で
SB-09 22図1	高杯 弥生	口径 24.2 残高 16.4 底径 — 環部既完存	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR4/8赤褐(赤色塗彩) (B) 2.5YR4/6赤褐(赤色塗彩)	粘土帶積み上げ 壺部中位で屈曲して外反する口縁部に至る 口唇に4つの突起	(A) 横位の鏡磨き (B) 横位の鏡磨き
SB-09 22図2	蓋 弥生	抓径 7.0 残高 5.1 縫径 — 抓～体部	胎：石英、粗砂粒、疊含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 7.5YR4/3褐	抓部から内弯しながら広がる	(A) 抓部撫で 体部木口状工具による撫で (B) 木口状工具による撫き

第10表 遺物観察表(7)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-09 22図3	深鉢 弥生	口径 15.3 器高 18.0 底径 11.5 ほぼ完存	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 10RA/6赤 (赤色塗彩) (B) 10RA/6赤 (C) 5YR5/4 明赤褐 (赤色塗彩)	粘土帶積み上げ 口縁部が屈曲外反する偏平気味の深鉢に 脚をつける	(A) 脚部縫位の箇磨き 鉢部横位の箇磨き (B) 脚部箇磨き 鉢部 横位の刷毛調整の後 箇磨き
SB-09 22図4	甕 弥生	口径 13.5 器高 20.2 底径 8.2 U1/2H-2/3	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR5/4にぶい赤褐 (B) 5YR5/4にぶい赤褐	粘土帶積み上げ 僅かに外反する脚部 と、つぶれ気味の脚部	(A) 口縁・脚部に波状文 頸部簾状文の後 所々に撫で脚部撫で (B) 横位の撫で
SB-09 22図5	甕 弥生	口径 13.2 残高 9.5 底径 — U2/3陽-1	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 5YR6/4にぶい橙	粘土帶積み上げ	(A) 口縁・脚部に波状文 頸部に簾状文 (B) 箇削りの後箇磨き と横撫で
SB-09 22図6	甕 弥生	口径 16.0 残高 5.2 底径 — 口縁3/4	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 10YR5/1 褐灰～10YR3/1 黒褐 (B) 7.5YR6/6橙	粘土を貼り付け厚く 膨らむ口縁部には面 取りを施す	(A) 口縁部のみ横位の 撫で 頸部縫位の刷 毛目 (B) 横位の刷毛目
SB-09 22図7	壺 弥生	口径 11.0 残高 4.8 底径 — 口縁1/4	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	粘土を貼り付け厚く 膨らむ口縁部、頸部 とも直立して立ち上 がる	(A) 口縁位の、頸部 縫位の刷毛状工具に による搔き取り (B) 木口状工具による 撫で
SB-09 22図8	甕 弥生	口径 — 残高 8.5 底径 — 口縁部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR5/6明赤褐 (B) 5YR5/6明赤褐		(A) 綜波状文と簾状文 (B) 横位の箇磨き
SB-09 22図9	甕 弥生	口径 — 残高 9.4 底径 4.6 U1-2H-2/3	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/4にぶい橙 (B) 7.5YR7/4にぶい橙	粘土帶積み上げ 不安定な丸底気味の 底部から垂状の脚部 に立ち上がる	(A) 箇削りの後指によ る撫で (B) 箇撫で
SB-09 22図10	甕 弥生	口径 — 残高 9.2 底径 6.3 底部完存	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR7/4にぶい橙 (B) 5YR6/6橙	粘土帶積み上げ	(A) 箇削りの後刷毛調 整及び箇磨き (B) 刷毛撫で
SB-10 23図1	壺 弥生	口径 — 残高 6.3 底径 — 頸部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (赤色塗彩) (B) 5YR5/4にぶい赤褐		(A) T字文 (B) 撫で
SB-10 23図2	壺 弥生	口径 — 残高 3.6 底径 — 頸部の一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 5YR5/4にぶい赤褐	ボタン状突起を貼付 する	(A) T字文? (B) 箇磨き

第11表 遺物観察表(8)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-10 23図3	壺 弥生	口径 13.4 器高 15.8 底径 6.8 3/4	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/4にぶい赤褐 (B) 5YR4/3にぶい赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁・胸部上位波状文 (B) 頸部縦状文 (C) 磨き 外器面荒れている
SB-10 23図4	壺 弥生	口径 16.0 残高 11.0 底径 — 嘴-輪-8	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR3/3暗褐 (B) 5YR5/4にぶい赤褐	粘土帶積み上げ 口唇部を面取り状に仕上げる	(A) 口縁・胸部波状文 頸部縦状文 (B) 木口状工具による横撫で
SB-10 23図5	壺 弥生	口径 — 残高 6.3 底径 — 口縁部一部	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/8橙～5YR3/2暗赤褐 (B) 5YR6/8橙	LI縁部は内弯気味に立ち上がる	(A) 口縁部波状文 頸部縦状文 (B) 横位の撫で
SB-13 24図1	瓶 弥生	口径 — 残高 11.5 底径 6.7 輪-輪-8	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR5/6明赤褐	底部に一孔を有する	(A) 斜位・縦位の箝削り (B) 縦位の箝磨き
SB-13 24図2	壺 弥生	口径 — 残高 8.0 底径 — 嘴-輪-8	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR3/3暗赤褐 (B) 5YR4/4にぶい赤褐		(A) 波状文を施す (B) 横位の箝磨き
SB-13 24図3	壺 弥生	口径 — 残高 4.0 底径 — 口縁部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR2/3極暗褐 (B) 5YR5/6明赤褐		(A) 波状文 (B) 横位の箝磨き
SB-13 24図4	壺 弥生	口径 — 残高 2.8 底径 6.4 底部3/4	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR6/6橙		(A) 胸部縦位・横位の箝削り (B) 箝撫で
SB-15 25図1	壺 弥生	口径 — 残高 9.8 底径 10.5 輪-輪-8	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR3/6暗赤褐(赤色塗彩) (B) 5YR5/6明赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 胸部下位縦位の箝磨き (B) 横位の刷毛状工具による撫で
SB-15 25図2	壺 弥生	口径 — 残高 12.8 底径 — 頸部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10R4/8赤(赤色塗彩) (B) 10R4/8赤～2.5YR5/8明赤褐 (一部赤色塗彩)		(A) 頸部T字文 胸部 箝磨き (B) 箝削りの後、木口 工具による搔き取り
SB-15 25図3	壺 弥生	口径 — 残高 6.0 底径 — 頸部一部	胎: 石英、粗砂粒、疊合む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR5/8明赤褐(赤色塗彩) (B) 2.5YR5/8明赤褐～5YR6/8橙 (一部赤色塗彩)		(A) 頸部T字文 胸部 横位の箝磨き (B) 横位の箝磨き

第12表 遺物観察表(9)

遺構No 図版No	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-15 25図4	高杯 弥生	口径 25.6 残高 7.2 底径 — 環部1/3	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 2.5YR3/4暗赤褐（赤色塗彩） (B) 2.5YR3/6暗赤褐（赤色塗彩）	口唇部に山型突起を貼布する(4ヶ所?)	(A) 体部上位斜位の箇磨き 体部下位縦位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-15 25図5	高杯 弥生	口径 — 残高 5.3 底径 6.0 脚部2/3	胎：粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 10R4/8赤（赤色塗彩） (B) 7.5YR4/1褐灰		(A) 縦位の箇磨き (B) 木口上工具による搔き取り
SB-15 25図6	壺 弥生	口径 12.6 器高 14.0 底径 7.0 耳・鼻・目	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR5/4にぶい赤褐 (B) 5YR5/6明赤褐	粘土帶積み上げ	(A) 口縁～胴部上位に入り組んだ波状文 (B) 横位の撫で
SB-15 25図7	壺 弥生	口径 20.2 残高 9.3 底径 — 耳・鼻・目1/3	胎：石英、粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/8赤褐	粘土帶積み上げ	(A) ピッチの短い波状文 (B) 横位の箇磨き
SB-15 25図8	壺 弥生	口径 13.8 残高 16.5 底径 — 耳1/4鼻1/4	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/8橙～5YR1.71/1 黒 (B) 5YR6/6橙	最大径を胴部に有し 口縁の開きは少ない	(A) 口縁～胴部上位縦位の箇磨き 中位横位の箇磨き (B) 指による撫で
SB-15 25図9	壺 弥生	口径 — 残高 13.7 底径 — 胸部一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR4/4にぶい赤褐 (B) 5YR4/8赤褐	頸部に鈎を巻き付ける	(A) 縦位の箇磨き (B) 横位の箇磨き
SB-15 25図10	壺 弥生	口径 — 残高 4.7 底径 — 耳1/4	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 7.5YR4/1褐灰		(A) 波状文 (B) 横位の箇磨き
SX-01 26図1	壺 弥生	口径 — 残高 9.1 底径 — 胸部一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 10R2/3極暗赤褐（赤色塗彩） (B) 2.5YR2/4極暗赤褐 (C) 10R2/3 極暗赤褐（赤色塗彩）	頸部から口縁に至る外反が著しい	(A) 3連止めの櫛描直線文 (B) 横位の箇磨き
SX-01 26図2	壺 弥生	口径 — 残高 15.3 底径 — 胸部一部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR4/4褐 (B) 5YR6/6橙	粘土帶積み上げ	(A) 波状文 指頭痕状の窪みを有する (B) 撫で
遺構外 27図1	壺 弥生	口径 — 残高 19.0 底径 8.5 耳・鼻・目1/4	胎：石英、粗砂粒、疊合む 焼：良好 色：(A) 2.5YR3/6暗赤褐（赤色塗彩） (B) 5YR6/6橙	平底から緩やかに外反しながら立ち上がり、緩やかな棱を経て胴部上位に至る	(A) 胴部下位箇磨き 胴部中位刷毛状工具による撫で (B) 木口状工具による撫で

第13表 遺物観察表(10)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か
遺構外 27図 2	高坏 弥生	口径 — 残高 11.8 基径 16.4 脚部のみ	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(A) 10R5/6赤（赤色繪彩） (A) 5YR6/6褐	四方に三角窓を開ける	(A) 縦位の鏡磨き (A) 木口状工具による 撫で

第14表 遺物観察表(11)

遺構NO	図版NO	器種	材質	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考
SB-01	PL11-1	石鐵	チャート	2.9	1.9	0.4		
SB-03	PL11-2	磨製石斧	頁岩	(5.7)	4.0	1.9	(61)	
SB-06	PL11-3	礫物石	安山岩	11.8	5.7	4.3	464	
SB-09	PL11-4	?	安山岩	(13.1)	5.6	4.4	495	使途不明
SB-10	PL12-1	?	鉄	(11.1)	(4.5)	(2.8)	(133)	数値はいずれも現状で計測
SB-10	PL12-2	?	鉄	(7.2)	(3.9)	(2.1)	(39)	数値はいずれも現状で計測
SB-15	PL12-3	大形蛤刃石斧	閃綠岩	13.1	6.6	4.5	605	柄の取付部両面に窪みを有する
遺構外	PL12-4	礫物石	安山岩	13.4	5.5	4.6	486	両先端部に叩き痕がある

第15表 遺物観察表(12)

写 真 図 版

P
L
1



S B - 0 1 (東から)



S B - 0 1 炉及び柱穴
(南から)

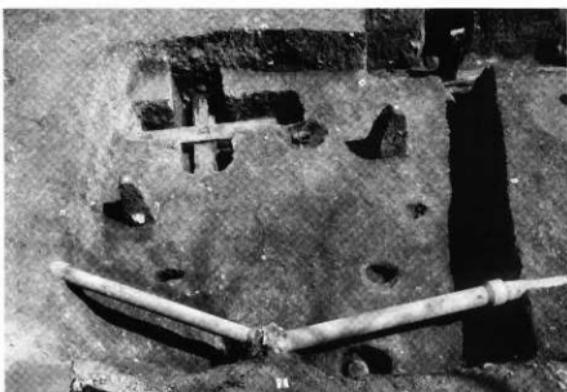


S B - 0 3 (南から)

P
L
2



SB-04 (南から)



SB-06 (南から)



SB-07 (西から)

P
L
3



SB-09 (南から)



SB-13 (東から)



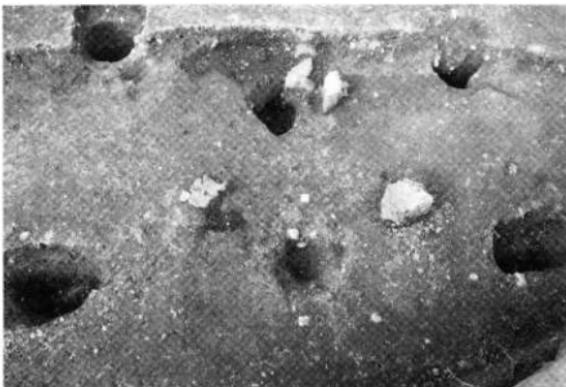
SB-15 (西から)

P

L

4

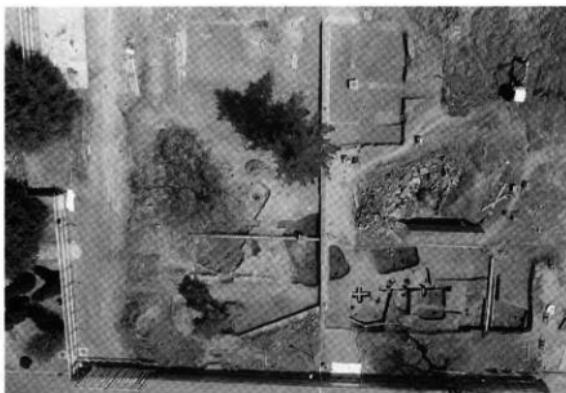
S B - 1 5 炉及び柱穴
(南から)



S X - 0 1 (北から)



調査区航空写真
(真上から)
...SB-04 未完掘…





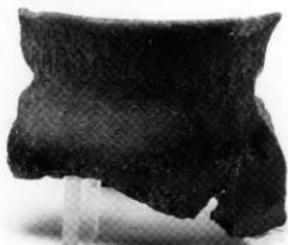
SB-01深鉢（図16-1）



SB-01壺（図16-9）



SB-01壺（図16-10）



SB-01壺（図16-12）



SB-02壺（図17-2）



SB-02壺（図17-3）

P

L

6



SB-03高坏 (图18-1)



SB-03片口鉢 (图18-2)

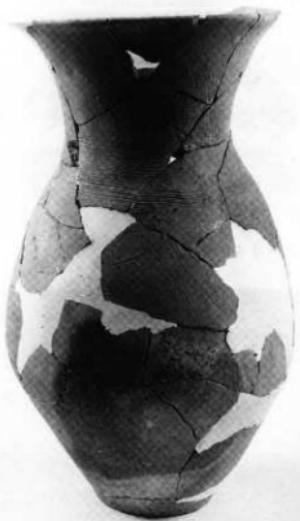


SB-04壺 (图19-1)



SB-04壺 (图19-2)

SB-04壺 (图19-4)



SB-04 壺 (図19-5)



SB-04 片口鉢 (図19-9)



SB-04 高環 (図19-11)



SB-04 瓶 (図19-14)



SB-04 壺 (図19-15)

P
L
8



SB-04 壺 (图19-16)



SB-04 壺 (图19-18)



SB-06 高坏 (图20-2)



SB-06 壺 (图20-3)



SB-06 壺 (图20-7)



SB-07 壺 (图21-7)

P
L
9



SB-07壺(図21-8)

SB-07壺(図21-6)



SB-09鉢(図22-3)



SB-09壺(図22-4)



SB-09壺(図22-5)

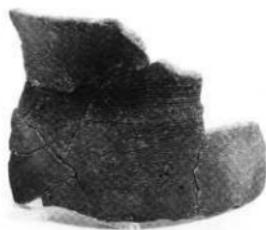
P

L

10



SB-10壺(図23-3)



SB-10壺(図23-4)



SB-13壺(図24-2)



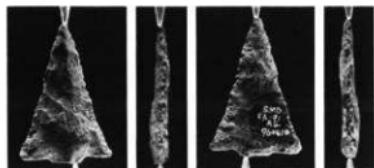
SB-15壺(図25-6)



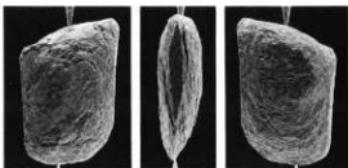
SB-15壺(図25-9)



信州大学講堂



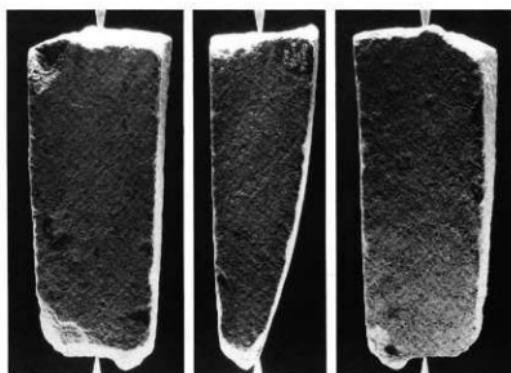
1 SB-01 石鏃 (1 : 1)



2 SB-03 磨製石斧 (1 : 2)



3 SB-06 磨物石 (1 : 2)

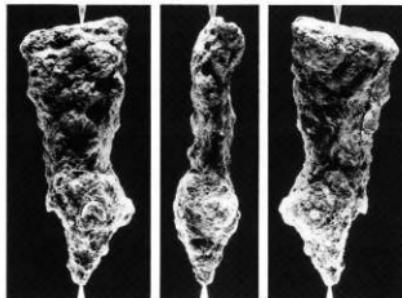


4 SB-09 石製品 (1 : 2)

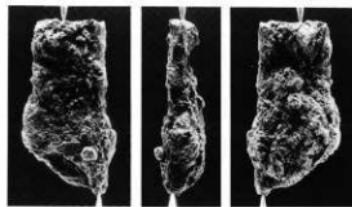
P

L

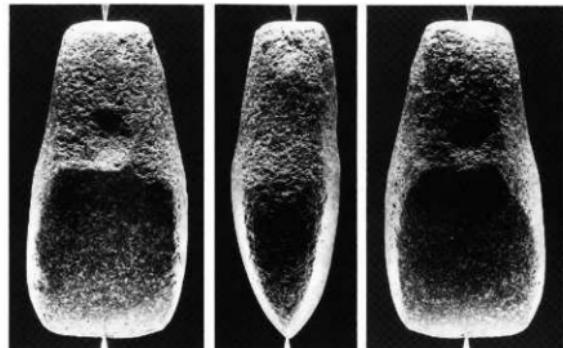
12



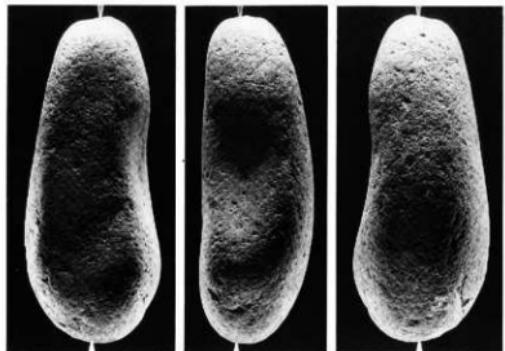
5 SB-10 鐵製品 (1 : 2)



6 SB-10 鐵製品 (1 : 2)



7 SB-15 太形蛤刃石斧 (1 : 2)



8 遺構外出土編物石 (1 : 2)

報告書抄録

ふりがな	しもまちだいせき
書名	下町田遺跡
副書題	信州大学織維学部大学院棟建設に伴う 常人遺跡群下町田遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第62集
編著者名	中沢徳士
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386 長野県上田市天神二丁目 4番74号
発行年月日	1997年2月28日
所収遺跡名（読み）	下町田遺跡（しもまちだいせき）
所在地（しょさいち）	長野県上田市常田三丁目15番1号
コード（調査・識別）	20203・57
北緯・東経（°' '')	36°23'21" • 138°15'53"
調査期間	1996年4月1日～4月30日
調査面積	1,000 m ²
調査原因	信州大学織維学部大学院棟建設

所収遺跡名	種 别	主な時代	主な 遺 構	主な遺物	特 記 事 項
下町田遺跡	集落址	弥生時代後期	堅穴住居址10件 集石遺構 1 件	弥生時代後期 壺・甕・高 杯・器台・ 鉢・石器	

上田市文化財調査報告書第62集
下 田 町 遺 考 史
—常入遺跡群下町田遺跡発掘調査報告書—
発 行 1997年2月28日
編 集 上田市教育委員会
印 刷 田口印刷株式会社